

令和8年度 佐呂間町教育の概要



佐呂間中学校入学式



佐呂間中学校運動会

佐呂間町教育委員会

目 次

佐呂間町の概要	1
佐呂間町教育目標	2
学校教育目標	3
佐呂間町教育行政推進方針（抜粋）	4
学 校 教 育	
学 校 概 要	
佐呂間小学校	7
若佐小学校	9
佐呂間中学校	11
佐呂間高等学校	13
学校教育団体	15
統廃合の沿革	16
社 会 教 育	
社会教育目標	22
社会教育関係事業	24
社会教育団体	31
教 育 予 算	33
教 育 施 設	
施設の概要	34
施設の利用状況	36
教育関係委員名簿	37
佐呂間町教育委員会事務局の機構	38

佐 呂 間 町 の 概 要

■ 沿 革

佐呂間町は、1894年(明治27年)、鈴木甚五郎が青森県から入植し浜佐呂間に定住したことにより歴史の1ページが始まった。その後、本州各地から農漁業を営む入植者が次々と来住、本町を開拓してきた。そして農林漁業を基幹産業とし、また、サロマ湖を中心に観光地として発展を遂げ、1994年(平成6年)に開基100年を迎えた。

■ 町名の起源

町名は、アイヌ語の「サロ・オマ・ペット(葦のあるところの川)」と「サラ・オマ(葦のあるところの沼)」が起源とされており、それが転じて「サロマ」となり、1915年(大正4年)に「佐呂間」と和文転用された。

■ 位置と面積

オホーツク管内のほぼ中央部に位置し、北見市、湧別町、遠軽町と隣接しており、北方一帯はサロマ湖に面している。総面積は、404.99平方キロメートルを有している。

■ 地 勢

佐呂間町は、大雪山系の山々を背景に、東西が細長く、北方は丘陵地帯を形成し、またその一帯は海に面している。町の中央を流れる佐呂間別川はサロマ湖へと注ぎ、流域一帯には肥沃な大地が広がっている。

■ 町 章

佐呂間町のカナ文字を「サ」が「ロ」と「マ」を囲むように図案化したものである。横棒が、全町を固く結んだ町民の心、一致団結、共存共栄、円満な理想郷を表している。



(昭和28年4月1日制定)

■ 人 口

各年9月末日現在

年	世 帯 数	総 数	男	女
平成26年	2,556	5,655	2,638	3,017
平成27年	2,543	5,547	2,607	2,940
平成28年	2,495	5,387	2,538	2,849
平成29年	2,476	5,291	2,484	2,807
平成30年	2,499	5,237	2,451	2,786
令和元年	2,511	5,150	2,422	2,728
令和2年	2,461	5,015	2,367	2,648
令和3年	2,397	4,873	2,304	2,569
令和4年	2,416	4,818	2,266	2,552
令和5年	2,439	4,727	2,208	2,519
令和6年	2,468	4,670	2,164	2,506
令和7年	2,472	4,596	2,118	2,478

佐 呂 間 町 教 育 目 標

森と湖の大自然に育まれた私たち町民は「英知と友愛と勇氣」をもって、明るく豊かなまちづくりを目指し、活力ある人間性豊かなたくましい人になるため、この教育目標を制定します。

みずか まな
自 ら 学 び

と も に 磨 き 合 い

ひろ こころ
広 い 心 と

い
生 き が い を も ち

ふ る さ と を 愛 す る

た く ま し い サ ロ マ 人^{びと}

(平成7年1月1日制定)

■ 解 説

佐呂間町は、開拓以来、心豊かな人づくりを目指し、明るく平和な町づくりの創造に、英知と友愛と勇氣をもって励んできました。

これからは、新しい時代に向けて、創造的に富む知性豊かな人になるために自ら学ぶ姿勢をもち、考え、行動することが求められます。

また、自然や文化に親しみ、美しさや優しい心など、豊かな情操を培うとともに、広い心で人々と交流し、ともに磨き合い、ふるさとの発展に努めることが必要です。

さらに、町民としての責任と誇りを自覚し、自然の豊かさと調和した産業と文化の町づくりを目指して、ふるさとの発展に励むことが大切です。

そして強い意志をもって、心身を鍛え、明るくたくましく生きるために、生命を尊びふるさとの自然や特性を生かして、積極的に行動する事が望まれています。

ふるさとの21世紀を展望するとき、生涯を通じて学ぶ意欲をもち、町民一人一人が主役となり、生きがいのある生活を築く、「たくましいサロマ人」になることが期待されます。

■ 基本的指標

- 【知】
 - ・ 自ら学び、創造的に実践する人に
 - ・ 広い考えで、時代の変化にたくましく対応する人に
 - ・ 生涯学び続け、生きがいのある人生を築く人に
- 【情】
 - ・ 自然を愛し、思いやりのある心をもつ人に
 - ・ 郷土の文化を大切に、豊かな社会をつくる人に
 - ・ 広い心で、国際社会のためにつくす人に
- 【意】
 - ・ 責任をもち、自ら進んでやりぬく人に
 - ・ 勤労に喜びをもち、よりよい生活をする人に
 - ・ 町民としての誇りをもち、地域の発展に努める人に
- 【体】
 - ・ 健康安全に心がけ、進んで心身を鍛える人に
 - ・ スポーツに親しみ、活力ある生活をする人に
 - ・ 生命を尊重し、うるおいのある生き方をする人に

学 校 教 育

学校教育目標

～自ら未来をきり拓き、たくましく生きるために～

- 自ら学び 創造力のある人に
- 郷土を愛し 豊かな心をもつ人に
- 進んで働き 最後までやりぬく人に
- 生命を尊び 明るくたくましい人に

(平成7年4月1日改定)

■ 解 説

佐呂間町は、森と湖のまちに相応しい文化の創造のため、多くの困難を乗り越え、開基100年の輝かしい歴史と伝統を築いてきました。この先人の魂を正しく継承し、21世紀を担う子ども達が調和のある発達を期すための目標であります。そして、限りない未来を拓く子どもの心身ともに健全な成長を願い「自ら考え、正しく判断できる人間性豊かなたくましい子ども」の育成を目指しています。

○自ら学び、創造力のある人に

生涯にわたって学び、創造力のある人になるためには、自ら学ぶ意欲や態度を培い基礎的・基本的内容をしっかり身につけることが大切です。

そして、個性を生かしながら思考力・判断力・表現力や情報処理能力など、生きて働く力を培い、時代の変化に対応する積極的な態度や能力を育成することが重要です。

○郷土を愛し、豊かな心をもつ人に

ふるさとを愛し、人を思いやる豊かな心を持つ人になるためには、自然に親しみ、人間尊重の精神や感謝の心を培い、積極的に行動する態度を身につけることが大切です。

そして、広い心と温かい人間性を育て、互いに協力し合い、励まし合って郷土のために尽くす態度や国際社会に適応する能力を育成することが重要です。

○進んで働き、最後までやりぬく人に

仕事に励み、強い意志と実力を持ち、個性豊かな人になるためには自ら考え行動し、自発的に課題を解決していく態度を身につけることが大切です。

そして、積極的に体験する中で、ものごとを深く探求する心を培い、自分の良さを生かしながら、最後まで粘り強くやりぬく力を育成することが重要です。

○生命を尊び、明るくたくましい人に

生命を大切にし、自ら心や体を鍛え、明るく生きる人になるためには、日常的に健康安全に努め、心身を磨き、自ら解決していく態度を身につけることが大切です。

そして、家庭や地域との連携を密にし、生涯にわたって自ら実践するとともに、環境や社会の変化に対応できる態度や能力育成することが重要です。

佐呂間町教育行政推進方針（抜粋）

世界は今、予測困難なVUCAの時代と言われて久しく、人口減少や少子高齢化といった構造的な課題に加え、生成AIをはじめとするテクノロジーの進化が、私たちの生活様式や価値観、そして「人間としてのあり方」そのものに大きな問いを投げかけています。このような時代の転換点において、教育行政に求められるのは、単なる前例踏襲や対症療法的な対応ではありません。現在の延長線上にはない未来を強く「思い描き」、そこへ向かって果敢に「挑み」、理想とする姿を「実現する」という、確固たる意志と行動力です。

佐呂間町教育委員会は、本年度、令和8年度を「3つの未来シコウ（思考・試行・志向）」の実践元年と位置付け、教育行政のあらゆる場面において、この新しい視座を貫いてまいります。

昨年度スタートした「併設型小中一貫校」の実質化に向けた取組を加速させるとともに、新たに始動する「第9次佐呂間町社会教育中期計画」を踏まえ、学校・家庭・地域が一体となった教育体制を再構築します。「3つの未来シコウ」を羅針盤とし、佐呂間町教育目標である『自ら学び ともに磨き合い 広い心と生きがいを持ち ふるさとを愛するたくましいサロマ人』の育成に、不退転の決意で取り組んでまいります。

以下、この基本姿勢に基づき、各重点施策をご説明申し上げます。

◎学校教育の推進

1. 小中一貫教育の実質化と「未来思考」の学び

併設型小中一貫校としてスタートした佐呂間小学校、若佐小学校、佐呂間中学校においては、取組の深化へとフェーズを移行させ、「小中一貫教育の実質化」を目指します。これまでの実践に加え、9年間の学びの連続性を担保するカリキュラムの運用を定着させます。また、成果につながりつつある中学校教員による乗り入れ授業、合同行事などの実施を通じて、教職員が9年間を見通した指導を行う体制を整えます。これにより、いわゆる「中1ギャップ」の解消にとどまらず、異年齢集団での交流が互いの自己肯定感を育む土壌を作ります。

また、本年度より新たに「サロマ型指導主事」を配置いたします。これは、町立学校の教諭としての身分を持ちながら、教育委員会の指導主事も兼務する画期的な人事配置です。学校現場で授業を担当し、子供たちの実態や先生方の課題を肌で感じつつ、専門的任用職員として広い視野で施策を立案する。この「学校と行政の結節点」となる役割が機能することで、現場の声を即座に各種施策へ反映させ、小中一貫教育のエンジンを強力に加速させてまいります。

2. ICTと生成AIを活用した「未来試行」の挑戦

「GIGAスクール構想」は、端末整備の段階を終え、いかに「文房具」として使いこなし、思考を深めるかという活用フェーズに入りました。本年度は、国や北海道の方針を踏まえ、更新された一人一台端末を最大限に活用するとともに、急速に普及する生成AIへの対応として、新たに「生成AI利活用ガイドライン」を作成いたします。AIに使われるのではなく、AIを適切に使いこなし、自らの思考を拡張させる力は、これからの社会を生きる上で必須のスキルです。発達の段階に応じた利用ルールを定め、情報モラル教育とセットで、生成AIを効果的に活用する授業実践の検討を進めます。これにより、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、子供たちが自ら問いを立て、解決策を探究する力を育成してまいります。

3. 「誰一人取り残さない」多様な学びの場の保障

不登校や学校生活に困難を抱える児童生徒への支援は、待ったなしの課題です。教育支援センターの機能充実に加え、本年度より新たな試みとして、「メタバース空間」を活用した不登校支援に着手します。物理的に学校へ足を運ぶことが困難な子供たちに対し、アバターを通じて安心して他者と交流できる仮想空間上の居場所を提供します。ここでの活動出席扱いとするなど、柔軟な制度運用と組み合わせることで、社会とのつながりを維持し、学びの機会を保障します。「学校に来ることができない」ことが「学びの断絶」にならないよう、テクノロジーの力を借りて、一人一人のペースに寄り添った支援を展開してまいります。

4. 教職員のウェルビーイングと資質能力の向上

質の高い教育の根幹は「人」、すなわち教職員にあります。子供たちに向き合う時間を確保し、教職員自身が学び続ける意欲を持てる環境づくりが不可欠です。働き方改革の一環として、校務DXの推進や支援員の活用を継続するとともに、教員の主体的な学びを応援するため、新たに定めた「町立学校などの特色ある教育活動促進費執行要領」に基づき、先進地視察や専門的な研修への参加にかかる費用などを積極的に支援します。教員が自ら学び、挑戦し、成長する姿は、必ずや子供たちへの良きロールモデルとなります。意欲ある教職員が、佐呂間町で働くことに誇りとやりがいを感じられるよう、バックアップ体制を強化してまいります。

5. 佐呂間高等学校との連携と魅力化

佐呂間高等学校については、本町と高校が相互にパートナーとして連携・協働する活動を積極的に展開し、Win-Winの関係を構築することが重要です。こうしたことから、高校存続に向け、今後も各種補助金や給付金制度を活用した経済的支援を継続するとともに、本年度より新たに、「教育魅力化推進室」を教育委員会に設置し、学校と地域が協働する教育環境の整備や、佐呂間高校の魅力を町内はもとより、町外・道外へ積極的に発信するための支援に取り組みます。また、佐呂間高等学校への「学校給食の配食」を開始し、成長期にある高校生の健康を「食」を通じて支えるとともに、小・中学生と同じ給食を食べることで、地域全体で子供たちを育てるという機運を一層高めます。その他、小中一貫教育の流れを高校まで接続し、高校生が地域課題の解決に取り組む探究活動を支援することで、18歳までの切れ目のない教育環境を整えてまいります。

◎社会教育の推進

1. 社会教育の推進

社会教育については、佐呂間町社会教育目標を基底とする第8次佐呂間町社会教育中期計画（令和3～7年度）を踏まえ、町民の自発的・主体的な学習の支援、乳幼児から高齢者までのニーズに応じた幅広い事業展開、交流活動への参加、体験機会の充実に努めるとともに、第9次佐呂間町社会教育中期計画（令和8～12年度）の策定を進めてまいります。

また、学校教育と社会教育がより一層連携し、学校・家庭・地域が深く結びついた社会教育事業を展開してまいります。

芸術・文化は生活を明るく豊かにするものであります。文化講演会や鑑賞事業の開催により、芸術文化に満ち溢れた「まちづくり」を推進し、町内外への情報発信に努めてまいります。

2. 図書館事業の推進

図書館事業については、子どもたちへの絵本の読み聞かせ、成人式での本の贈呈など、本に親しむ取組を引き続き進めてまいります。

また、移動図書館車あおぞら号による巡回、絵本原画展やボランティアサークルによる人形劇公演の開催、子ども向けの工作教室などのイベントの実施により、本への関心向上や図書館の利用促進に取り組んでまいります。

学校との連携は、学校の図書担当教諭と協力して学校図書室の整理を行い、児童生徒が利用しやすい図書室づくりと読書活動の推進に取り組んでまいります。

このほか、「図書館だより」などにより、図書館情報を広く提供し、図書館サービスの充実に努めてまいります。

3. 社会体育の推進

スポーツは、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものであり、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであります。

そのため、各種スポーツ活動の支援や環境の整備に努め、「生涯スポーツの町宣言」に沿ったスポーツの振興を図ってまいります。

社会体育の中核施設である武道館・温水プールについては、指導の充実を図り、町民の体力・健康づくりの場として様々な事業に取り組んでまいります。

◎教育関係施設の整備

学校、図書館、給食センター、武道館・温水プールなどの教育関係施設の整備については、令和3年度からスタートした「第5期佐呂間町総合計画」を基本として、限られた財源を効果的に活用しながら、より長く活用できる施設整備に取り組んでまいります。

佐 呂 間 小 学 校					校 章		
所 在 地		常呂郡佐呂間町字幸町 1 番地の 1					
創 立 年 月 日		平成 1 8 年 4 月 1 日					
沿 革	平成 1 8 年 4 月 1 日		佐呂間町学校再編成により旧佐呂間小・知来小・仁倉小・若里小・富武士小が、新「佐呂間小学校」として開設される				
	平成 1 9 年 4 月 9 日		佐呂間町学校給食センター開設により給食開始				
	平成 2 1 年 4 月		二学期制実施				
	平成 2 5 年 4 月		言語障害通級指導教室（ことばの教室）開設				
	令和 7 年 4 月		佐呂間町小中一貫教育開始				
	令和 8 年 4 月		浜佐呂間小学校を統合				
教 職 員 等	校 長	池 田 潤		教 諭	後 藤 理 奈	言語通級	
	教 頭	福 澤 友 規		教 諭	久 保 とも 子	言語通級	
	教 諭	山 内 蒼 真	1 年	教 諭	水 口 志 穂	言語通級	
	教 諭	黒 田 智 嵩	2 年	教 諭	阿 部 翔 平	専 科	
	教 諭	佐 藤 駿 世	3 年	養 護 教 諭	佐々木 未 央		
	教 諭	大 矢 貴 博	4 年	栄 養 教 諭	大 島 智 恵		
	教 諭	高 久 光 介	5 年	事 務 主 幹	八 木 崇		
	教 諭	佐 野 圭 介	6 年	公 務 補	富 田 正 之		
	教 諭	菅 芳 香	学習室	特別支援員	宮 崎 美 知 子		
	教 諭	吉 田 康 祐	学習室	特別支援員	天 野 朋 子		
	教 諭	岩 田 治	学習室	特別支援員	堀 内 靖 子		
	教 諭	工 藤 学	学習室	特別支援員	宮 崎 由 佳		
	教 諭	坂 本 香 織	学習室	特別支援員	神 崎 律 子		
	教 諭	齊 藤 亜 希 子	学習室	非常勤講師	野 村 陽 子		
	教 諭	岩 本 昂 己	学習室				
	教 諭	江 口 千 裕	言語通級				
児 童 数 学 級 数	学 年	児 童 数	学 級 数	学 年	児 童 数	学 級 数	
	1 年	19	1	5 年	13	1	
	2 年	22	1	6 年	18	1	
	3 年	10	1	特 別 支 援	17	6	
	4 年	24	1	合 計	123	12	
学 校 運 営 会 協 議 会	鈴 木 身江子	諸 岡 和 正	松 永 義 一	船 木 英理子			
	池 田 潤	福 澤 友 規					

P T A	会 長	惣 田 正		事 務 局	福 澤 友 規 (教頭)						
	副 会 長	藤 崎 康 平		会 計	須 藤 萌						
	副 会 長	諸 岡 篤 史		会 計	八 木 崇 (事務)						
	事 務 局 長	鹿 島 裕 明									
教 育 目 標	思いを伝え合い 豊かな未来を創る子 (すすんでまなぶ子) 認め合い 励まし合える子 (たすけあうやさしい子) 健康な心と体を持ち やりとげられる子 (げんきでたくましい子)										
重 点 目 標	自ら問い、言葉でつながり、しなやかに挑み続ける ～ 心の中に「やってみたい！ やってみよう！」の火を灯そう ～										
研 究 主 題	「書く・対話する・つなぐ」で深まる学びのデザイン ～自ら問い、言葉でつながり、しなやかに挑み続ける「さろまっ子」を育てるために～										
基本的な日 課	<table><tr><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td></tr></table>					月	火	水	木	金	
	月	火	水	木	金						
	8:10	登 校	登 校	登 校	登 校	登 校					
	8:15	職員朝会 (全校朝会)	朝学習 (朝読書)	学習準備	朝学習	朝学習					
	8:20			学級朝の活動							
	8:25	学級朝の活動	学級朝の活動	学級朝の活動	学級朝の活動	学級朝の活動					
	8:35	1 時間目	1 時間目	1 時間目	1 時間目						
	9:10	1 時間目	1 時間目								
	9:15	学習準備	学習準備	学習準備	学習準備						
	9:20	2 時間目	2 時間目	2 時間目	2 時間目						
	9:25					2 時間目	2 時間目				
	10:00	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動						
	10:10					自由遊び 業間活動	自由遊び 業間活動				
	10:15	3 時間目	3 時間目	3 時間目	3 時間目						
	10:30					3 時間目	3 時間目				
	11:00	3 時間目	3 時間目	学習準備	3 時間目	3 時間目					
	11:05						学習準備	学習準備			
	11:15	学習準備	学習準備	4 時間目	学習準備	学習準備					
	11:20	4 時間目	4 時間目		4 時間目	4 時間目					
	11:50	給 食	給 食	給 食	給 食	給 食					
	12:05			給 食							
	12:25			給 食							
	12:35			給 食							
	12:40	昼休み	昼休み	1・2年生帰りの会／下校	給 食	給 食					
	12:45						給 食				
	13:05	昼休み	昼休み	5 時間目	昼休み	昼休み					
	13:25	清 掃	清 掃		清 掃	清 掃					
	13:30	5 時間目	5 時間目	学習準備	5 時間目	5 時間目					
14:10	学級帰りの会	学級帰りの会	6 時間目	5 時間目	5 時間目						
14:15				学級帰りの会	学級帰りの会						
14:20	6 時間目	6 時間目	学級帰りの会	6 時間目	6 時間目 (クラブ・委員 会の場合あり)						
14:25						学級帰りの会	学級帰りの会				
15:00	学級帰りの会	学級帰りの会	最終下校	学級帰りの会	学級帰りの会						
15:10	学級帰りの会	学級帰りの会		学級帰りの会	学級帰りの会						
15:30	最終下校	最終下校		最終下校	最終下校						
校 歌	三 汐の香匂う 佐呂間の湖に 大きな夢を 語りつつ 育つ心を 大切に みんなで学ぼう 佐呂間小										
	二 花も草木も 小鳥の声も みんなやさしく 包み合う 自然の息吹 受けとめて みんなで歩もう 佐呂間小										
	一 朝は輝く 光を浴びて 希望を胸に 通う路 声かけ合って 手を結び みんなで創ろう 佐呂間小 佐呂間小学校校歌 作詞 作曲 松田 彰光										

若 佐 小 学 校					校 章				
所 在 地	常呂郡佐呂間町字中園 3 8 番地の 1								
創 立 年 月 日	平成 1 8 年 4 月 1 日								
沿 革	平成 1 8 年 4 月 1 日		佐呂間町学校再編成により、旧栄小学校と若佐小学校が、新「若佐小学校」として開設される						
	平成 1 8 年 4 月 6 日		開校式 校旗・校章制定						
	平成 1 8 年 7 月 2 7 日		旧若佐中学校校舎へ移転						
	平成 1 8 年 8 月 2 1 日		校門除幕式						
	平成 1 9 年 4 月 9 日		佐呂間町学校給食センター開設により給食開始						
	平成 2 1 年 4 月		二学期制実施						
教 職 員 等	校 長	風 間 直 樹			養 護 教 諭	黒 瀧 由希子			
	教 頭	橋 場 哉 子			事 務 職 員	大 崎 みゆき			
	教 諭	武 本 太		1・2 年	公 務 補	本 間 篤 史			
	教 諭	井 上 夕 紀		3・4 年	特別支援員	村 山 知 佐			
	教 諭	三 野 愛 莉		5・6 年	時 間 講 師	野 村 陽 子			
	教 諭	齋 藤 文 枝		自情学級					
	教 諭	大 野 真 郷		知的学級					
児 学 童 級 数 数	学 年		児 童 数	学 級 数	学 年		児 童 数	学 級 数	
	1 年		2	1	5 年		3	1	
	2 年		3		6 年		4		
	3 年		0	1	特 別 支 援		3	2	
	4 年		2		合 計		17	5	
学 校 運 営 協 議 会 委 員	佐々木 孝三郎		田 宮 英 明		阿 部 隆 文		田 宮 拓 郎		
	風 間 直 樹		橋 場 哉 子						
P T A	会 長	田 宮 拓 郎			会 計	平 戸 はるみ			
	副 会 長	直 井 敏 哲			会 計	大 崎 みゆき			
	副 会 長	佐 伯 哲 也			事 務 局 長	橋 場 哉 子			
	副 会 長	十 亀 由美子							

教育目標	☐ 思いを伝え合い、豊かな未来を創る子 ☐ 認め合い 励まし合える子 ☐ 健康な心と体をもちやり遂げられる子																																												
重点目標	「自ら問い、言葉でつながり、しなやかに挑み続ける」 ～心の中に「やってみたい！やってみよう！」の火を灯そう																																												
研究主題	「書く・対話する・つなぐ」で深まる学びのデザイン ～自ら問い、言葉でつながり、しなやかに挑み続ける「さろまっ子」を育てるために～																																												
基本的な日課	<table><tr><td>児童登校</td><td>～</td><td>8：00</td></tr><tr><td>朝の活動・朝の会</td><td>8：00</td><td>～ 8：15</td></tr><tr><td>1校時</td><td>8：15</td><td>～ 9：00</td></tr><tr><td>2校時</td><td>9：05</td><td>～ 9：50</td></tr><tr><td>中休み</td><td>9：50</td><td>～ 10：05</td></tr><tr><td>3校時</td><td>10：10</td><td>～ 10：55</td></tr><tr><td>4校時</td><td>11：00</td><td>～ 11：45</td></tr><tr><td>昼食</td><td>11：45</td><td>～ 12：20</td></tr><tr><td>昼休み・清掃</td><td>12：20</td><td>～ 12：35</td></tr><tr><td>5校時</td><td>12：35</td><td>～ 13：20</td></tr><tr><td>帰りの会</td><td>13：20</td><td>～ 13：30</td></tr><tr><td>6校時</td><td>13：30</td><td>～ 14：15</td></tr><tr><td>各種活動</td><td>14：15</td><td>～</td></tr><tr><td>児童下校</td><td>14：25</td><td></td></tr></table>			児童登校	～	8：00	朝の活動・朝の会	8：00	～ 8：15	1校時	8：15	～ 9：00	2校時	9：05	～ 9：50	中休み	9：50	～ 10：05	3校時	10：10	～ 10：55	4校時	11：00	～ 11：45	昼食	11：45	～ 12：20	昼休み・清掃	12：20	～ 12：35	5校時	12：35	～ 13：20	帰りの会	13：20	～ 13：30	6校時	13：30	～ 14：15	各種活動	14：15	～	児童下校	14：25	
児童登校	～	8：00																																											
朝の活動・朝の会	8：00	～ 8：15																																											
1校時	8：15	～ 9：00																																											
2校時	9：05	～ 9：50																																											
中休み	9：50	～ 10：05																																											
3校時	10：10	～ 10：55																																											
4校時	11：00	～ 11：45																																											
昼食	11：45	～ 12：20																																											
昼休み・清掃	12：20	～ 12：35																																											
5校時	12：35	～ 13：20																																											
帰りの会	13：20	～ 13：30																																											
6校時	13：30	～ 14：15																																											
各種活動	14：15	～																																											
児童下校	14：25																																												
校歌	<table><tr><td>三</td><td>二</td><td>一</td><td>若佐小学校校歌</td></tr><tr><td>樹花のひかる この庭に</td><td>武士の流れ 水清く</td><td>朝空あおく 風かおり</td><td></td></tr><tr><td>澄みむゆく心 歌として</td><td>心のちりを 洗いさり</td><td>緑に映える 佐呂間山</td><td></td></tr><tr><td>みんな仲よく 正しい子</td><td>清く素直に 伸びゆく子</td><td>みんな明るい 元気な子</td><td></td></tr><tr><td>われらの若佐小学校</td><td>われらの若佐小学校</td><td>われらの若佐小学校</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>小林幸男 作詞</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td>大野恒一 作曲</td></tr></table>			三	二	一	若佐小学校校歌	樹花のひかる この庭に	武士の流れ 水清く	朝空あおく 風かおり		澄みむゆく心 歌として	心のちりを 洗いさり	緑に映える 佐呂間山		みんな仲よく 正しい子	清く素直に 伸びゆく子	みんな明るい 元気な子		われらの若佐小学校	われらの若佐小学校	われらの若佐小学校					小林幸男 作詞				大野恒一 作曲														
三	二	一	若佐小学校校歌																																										
樹花のひかる この庭に	武士の流れ 水清く	朝空あおく 風かおり																																											
澄みむゆく心 歌として	心のちりを 洗いさり	緑に映える 佐呂間山																																											
みんな仲よく 正しい子	清く素直に 伸びゆく子	みんな明るい 元気な子																																											
われらの若佐小学校	われらの若佐小学校	われらの若佐小学校																																											
			小林幸男 作詞																																										
			大野恒一 作曲																																										

佐 呂 間 中 学 校					校 章		
所 在 地		常呂郡佐呂間町字幸町 9 番地の 1					
創 立 年 月 日		昭和 2 2 年 5 月 1 日					
沿 革	昭和 2 2 年 5 月 1 日		佐呂間村立中佐呂間中学校として開校				
	昭和 2 8 年 4 月 1 日		町制施行・字名変更により佐呂間町立佐呂間中学校と改称				
	昭和 4 0 年 4 月 1 日		若里中学校・知来中学校・富武士中学校を統合				
	昭和 4 1 年 4 月 1 日		仁倉中学校を統合				
	平成 1 1 年 4 月 1 日		幌岩中学校を統合				
	平成 1 8 年 4 月 1 日		若佐中学校・浜佐呂間中学校を統合				
教 職 員 等	校 長	太 田 依 里			教 諭	湯 澤 栞	知 的
	教 頭	伊 藤 浩 司			時 間 講 師	佐 伯 文 子	
	教 諭	河 崎 寛 多	1 A 担任	養 護 教 諭	青 山 綾 那		
	教 諭	村 上 史 明	1 A 副担任	事 務 職 員	奈 須 野 由 佳		
	教 諭	米 田 聖	1 A 副担任	公 務 補	中 村 宏		
	教 諭	小 貫 文	2 A 担任	特 別 支 援 員	津 村 接 美		
	教 諭	浦 野 覚	2 A 副担任	特 別 支 援 員	中 谷 乃 彩		
	教 諭	久 末 瑠 奈	2 A 副担任	特 別 支 援 員	本 田 ま ゆ み		
	教 諭	清 水 陽 介	3 A 担任	育 休	酒 井 奈 央		
	教 諭	中 津 圭 一	3 A 副担任	育 休	小 杉 い お り		
	教 諭	西 野 詩 織	3 A 副担任	休 職	谷 口 詩 歩		
	教 諭	湯 川 真	知 的				
	教 諭	浜 田 尚 明	知 的				
教 諭	東 梅 仁 美	情 緒					
生 徒 数 級 数	学 年	生 徒 数	学 級 数	部 活 動 の 状 況			
	1 年	28	1	野球部 ・ サッカー部 男女バスケットボール部 女子バレーボール部 バドミントン部			
	2 年	22	1				
	3 年	40	1				
	特 別 支 援	12	3				
	合 計	102	6				
学 校 運 営 協 議 会 委 員	関 東 正 浩		河 井 裕 樹		五十嵐 正 人		
	太 田 依 里		伊 藤 浩 司				
P T A	会 長	杉 山 友 洋		副 会 長	河 井 裕 樹		
	副 会 長	伊 藤 美 幸		監 査	井 田 喜 一 朗		
	監 査	穴 戸 唯		事 務 局 長	伊 藤 浩 司		

教 育 目 標	ともに磨き合い、たくましく生きる人を育む ・進んで学ぶ生徒（知） ・思いやりのある生徒（徳） ・たくましい生徒（体）		
経 営 の 重 点	【佐呂間町小中一貫教育】 1 重点教育目標 『自ら問い、言葉でつながり、しなやかに挑み続ける』 ～心の中に「やってみたい！ やってみよう！」の火を灯そう～ 2 育てたいさろまっ子の姿 ・思いを伝え合い豊かな未来を創る子 ・認め合い励まし合える子 ・健康な心と体をもちやり遂げられる子 3 5つの視点 ・目標をつなぐ ・学びをつなぐ ・心をつなぐ ・教職員をつなぐ ・地域をつなぐ 4 4つの取組 ・学びの連続性の保証 ・切磋琢磨できる学習環境の創造 ・豊かな人間性と関係を育む教育 ・ふるさと教育の推進 5 令和8年度の重点的な取組 ≪経営活動≫ ・校務分掌の統一と4部体制の運営 ・教職員のWBの向上・校務DXの推進 ・成功の循環モデル ≪教育活動≫ ・さろま学の進化と系統性 ・学習習慣の確立 ・書くことと対話を軸とした授業改善 【佐呂間中学校の重点的な取組】 1 自ら問い、互いに伝え合う（学習指導） 2 繋がり・支え・創る（さろま学） 3 しなやかに「社会を拓く」（生徒指導） 4 支え合い、学び合う（チーム佐中） 5 学びと成長を支える（地域連携）		
研 究 主 題	「書く・対話する・つなぐ」で深まる学びのデザイン ～自ら問い、言葉でつながり、しなやかに挑み続ける「さろまっ子」を育てるために～		
基本的な日課	朝読書 8：10－8：15 短学活 8：15－8：20 1校時 8：30－9：20 2校時 9：30－10：20 3校時 10：30－11：20 4校時 11：30－12：20 昼食 12：20－12：50	昼休み 12：50－13：05 5校時 13：10－14：00 6校時 14：10－15：00 短学活 15：10－15：15 清掃 15：15－15：30 下校 15：30	
校 歌	三、 嵐にめげず 雪こえて 真実に生きん若人が 唇固く 眉あげて 踏みゆく大地下萌えん 二、 湖白く 風落ちて 星もほえむ 夕なぎに 幸ある日々をたたえつつ 肩くみかわすわれらなり 一、 連峰はるか雲もえて 光さやけき 朝空に 希望あふるる窓あけて 建てるは佐呂間中学校 佐呂間中学校校歌 作詞 飯田 広太郎 作曲 千葉 日出城		

北海道佐呂間高等学校					校章		
所 在 地		常呂郡佐呂間町字北 3 1 1 番地の 1					
創 立 年 月 日		昭和 2 3 年 1 1 月 2 5 日					
沿 革	昭和 2 3 年 1 1 月 2 5 日		道立遠軽高等学校佐呂間分校として開校（定時制）				
	昭和 2 6 年 4 月 1 日		佐呂間村立佐呂間高等学校となる				
	昭和 2 8 年 4 月 1 日		町制施行により佐呂間町立佐呂間高等学校となる				
	昭和 3 0 年 4 月 1 日		農業科設置				
	昭和 3 7 年 4 月 1 日		全日制課程新設				
	昭和 3 9 年 3 月 3 1 日		道立移管 北海道佐呂間高等学校となる				
	昭和 5 4 年 2 月 2 8 日		定時制閉課				
	昭和 5 5 年 1 0 月 1 0 日		創立 3 0 周年記念式典・校舎改築落成記念式典				
	昭和 5 8 年 3 月 7 日		網走管内教育実践表彰受賞				
	昭和 5 8 年 9 月 2 2 日		網走管内社会福祉事業功労賞（団体）受賞				
	昭和 5 9 年 2 月 1 0 日		北海道教育実践表彰受賞				
	平成 元 年 1 2 月 1 5 日		屋内体育館完成（966.48㎡）				
	平成 3 年 4 月 1 日		全日制普通科 1 間口減、2 間口となる				
	平成 1 0 年 3 月 1 日		校訓制定				
	平成 1 0 年 1 0 月 1 8 日		創立 5 0 周年記念式典挙行				
	平成 1 1 年 2 月 7 日		平成 1 0 年度網走管内教育実践表彰受賞				
	平成 1 3 年 2 月 5 日		平成 1 2 年度北海道社会貢献賞を受賞				
	平成 1 9 年 1 1 月 1 5 日		平成 1 9 年度全国学校体育研究優良校表彰受賞				
	平成 2 0 年 7 月 3 日		北海道教育委員会環境教育プロジェクト校指定				
	平成 2 2 年 6 月 2 2 日		北海道教育委員会「高 1 クライシス未然防止事業」指定				
	平成 2 6 年 4 月 1 日		全日制普通科 1 間口減、1 間口となる				
	平成 2 7 年 4 月 1 日		北海道教育委員会より「地域キャンパス校」の指定を受ける				
	平成 3 0 年 4 月 1 日		北海道教育委員会より「地域連携特例校」の指定を受ける				
	令和 3 年 4 月 1 日		北海道高等学校遠隔授業配信センター(T-base)より遠隔授業の配信を受ける				
	令和 7 年 7 月 1 0 日		パーマ高校姉妹校提携 3 5 周年記念式典				
職 員 等	校 長	宮 崎 勉		教 諭	長 堀 太 一	(数学)	
	教 頭	佐々木 義人		教 諭	稲 村 拓 海	1A担任(英語)	
	事 務 長	岩 城 亮 助		教 諭	平 松 千 紗 子	(国語)	
	教 諭	大 橋 幹 正	(保健体育)	教 諭	高 宮 魁	(保健体育)	
	教 諭	長 野 智 幸	2A担任(理科)	養 護 教 諭	後 藤 里 緒		
	教 諭	小 山 田 裕 子	(商業)	事 務 主 任	南 出 正 人		
	教 諭	竹 岡 綾 子	(家庭)	主 事 (非常勤)	大 橋 紘 子		
	教 諭	野 村 杏 莉	(音楽)				
	教 諭	法 邑 亘 祐	3A担任(地公)				
生 徒 数	学 年	生 徒 数	学 級 数	部 活 動 の 状 況			
	1 年	18	1	サッカー	吹奏楽局		
	2 年	20	1	テニス	放送局		
	3 年	23	1	バドミントン			
	合 計	64	3	バスケットボール			
学 校 運 営 協 議 会 委 員	大 谷 宏 明	井 上 和 明	河 井 裕 樹	近 藤 朋 典			
	太 田 依 里	土 本 千 晶	池 田 潤	藤 川 直 美			
	杉 森 英 一	宮 崎 勉					
P T A	会 長	河 井 裕 樹		会 計	森 さゆり		
	副 会 長	早 坂 浩 一		会 計	岩 城 亮 助		
	監 事	藤 崎 康 平		事 務 局 長	佐々木 義 人		

校 訓	郷湖大地に学び自らの道を拓け			
教 育 目 標	1 自主性を高め、創造的な知性を持つ人となる 2 豊かな情操を持ち、礼儀正しい人となる 3 勤労を尊び、奉仕を喜ぶ人となる 4 生命の尊さを知り、健康でたくましい人となる			
教育の方針	1. スクール・ミッション（本校の使命） （1）地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成 （2）サロマ湖を擁する豊かな自然の中で、人とのつながりを大切に、夢の実現を目指して地道に努力する生徒の育成 2. スクール・ポリシー（3つの方針） （1）育成を目指す資質・能力に関する方針（卒業時に身に付ける力） ・幅広い知識、社会人基礎力を身に付け、自らの進路や社会の未来を切り拓く力と豊かな人間性を備えた人物の育成を目指す （2）教育課程の編成および実施に関する方針（教育方針） ・確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に対応する力を養うため、次の教育を行う ① 主体的・対話的で深い学びの実現による確かな学力（※1）の育成 ※1 知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等 ② 探究的な教育活動を基盤としたよるキャリア教育の充実と、社会人基礎力の（※2）育成 ※2 自ら挑戦する力、最後までやり通す力、他者と協働する力 ③ 地域の教育資源を活用した、多様で人間性豊かな人材の育成 ④ 地域連携校としての特性を生かした I C T活用と協働的な学びの推進 ⑤ 個別最適な学習指導による生徒の可能性の伸長と進路実現の支援 （3）入学者の受入れに関する方針（入学時に求める生徒像） ① 本校の使命や教育方針に共感し、主体的に学びに取り組む姿勢をもつ生徒 ② 学びを通して自己の成長を図り、将来の進路を切り拓こうとする生徒 ③ 地域の文化や人々を尊重し、地域と関わりながら学ぶ意欲をもつ生徒			
重 点 目 標	（1） 生徒一人一人の可能性を最大限に引き出すため、義務教育との接続を踏まえて個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、総合的な探究の時間を核に教育の魅力化を進める （2） 関係機関と連携・協働し、地域の未来づくりに参画するとともに、全国からの受験生受け入れに向けた体制を整備し、開かれた学校づくりを推進する （3） 教職員の専門性の向上と協働体制の強化を進め、働き方改革と働きやすい環境づくりを通して教育の質を高める			
基本的な日課	SHR 8：30～ 8：40 1校時 8：50～ 9：40 2校時 9：50～10：50 3校時 10：50～11：50 4校時 11：50～12：40	昼 食 12：40～13：25 5校時 13：25～14：15 6校時 14：25～15：15 SHR 15：15～15：25 清 掃 15：25～15：35		
校 歌	佐呂間高等学校校歌 大いなる 希望を呼びて 雲青く 流るるところ 明るき窓 遠く開き 若き誇り 毅然たる あゝ高校 わが学舎 遙かなる 佐呂間の湖の 水白く 輝くところ 平和の郷 ここに拓き あふるる力 眉上げて あゝ我等 いざ進まん 北の国 空すみわたり 星聖く またたくところ 真理の道 とわにたずね 尊き使命 果たすべく あゝ高き 我等が理想			

学校教育関係団体

○佐呂間町校長会

会 長	事 務 局 長	会 計	備 考
佐呂間中学校 太 田 依 里	若佐小学校 風 間 直 樹	佐呂間小学校 池 田 潤	

○佐呂間町教頭会

会 長	事 務 局 長	会 計	備 考
佐呂間中学校 伊 藤 浩 司	若佐小学校 橋 場 哉 子	佐呂間小学校 福 澤 友 規	

○佐呂間町特別支援教育推進協議会

会 長	事 務 局	備 考
佐呂間中学校 太 田 依 里	佐 呂 間 中 学 校	

○佐呂間町複式教育研究連盟

委 員 長	事 務 局	備 考
若佐小学校 風 間 直 樹	若 佐 小 学 校	

統合校の沿革

○栄小学校（平成18年 若佐小学校へ再編）

栄小学校校歌（作詞：河合義巳・作曲：河本二三夫）	沿	革
三二一 進永黄学め　　ひ強と高北　　明冬岸よ旭 む久金びぐ　　びくどい斗　　けを辺せ峠 栄のなのる　　く正松理の　　て忽にての 小しみ実山　　まし林想恵　　教ん芽流雪 学あうり脈　　なくにをみ　　えだ生れ解 校わつを錦　　び伸希示を　　の不えるの 　　せ山さが　　のび望し夜　　花断る佐水 　　求峡なは　　庭行のて露　　開の福呂を 　　めのがえ　　のく光立に　　く努寿間 　　て郷らて　　鐘道りつう　　力草の 　　励土見　　に　　たけ　　川 　　み　　せる　　て　　の	明治43年11月	1日 沙溜澗教育所所属「下佐呂間教授所」として開設
	大正 3年 6月24日	武士教育所付属に所属変更
	大正 4年 3月25日	上佐呂間尋常小学校に昇格
	大正12年 4月 5日	高等科を併置し上佐呂間尋常高等小学校となる
	昭和16年 4月 1日	上佐呂間国民学校と改称
	昭和22年 4月 1日	新学制施行により佐呂間村立上佐呂間小学校となる
	昭和22年 5月 1日	佐呂間村立上佐呂間中学校を併置
	昭和23年 4月 1日	分村により若佐村立上佐呂間小中学校となる
	昭和24年11月 1日	中学校が若佐中学校に統合し若佐中学校上佐呂間分校となる
	昭和27年 3月31日	若佐中学校上佐呂間分校が廃止され上佐呂間小学校となる
	昭和30年 4月 1日	字名変更により栄小学校と改称
	昭和31年 9月30日	佐呂間町との合併により佐呂間町立栄小学校となる

○知来小学校（平成18年 佐呂間小学校へ再編）

知来小学校校歌（作詞：鷲頭信五・作曲：三島通敏）	沿	革
三二一 そ真才ほ　　修光群紅　　励燃流青 の事ホえ　　めるれ黄　　みえれい 名一ーる　　磨夕なの　　学るも山 称途ツ北　　か風く錦　　ば朝響垣 えにク風　　ん 牛　　ん雲く　　勾 　　の　　身の稔　　知仰学う 　　君潮凍　　知に　　る　　来ぎび土 知よる道　　来受声穂　　校見舎 来吾と道　　校け晴に　　校てに 校れざす夜も	明治41年 1月31日	鑑沸簡易教育所分校川口教授所付属「智来第1特別教授所」として開設
	明治41年 4月 1日	沙溜澗教育所に所属変更
	大正 3年 3月 1日	智来教授所に昇格
	大正 4年 9月 8日	智来尋常小学校に昇格
	大正 4年11月 1日	知来尋常小学校と改称
	昭和16年 4月 1日	知来国民学校と改称、高等科併置
	昭和22年 4月 1日	新学制施行により佐呂間村立知来小学校となる
	昭和22年 5月 1日	佐呂間村立知来中学校を併置
	昭和28年 4月 1日	町制施行により佐呂間町立知来小中学校となる
	昭和41年 4月 1日	中学校が佐呂間中学校に統合となり知来小学校となる

○仁倉小学校（平成１８年 佐呂間小学校へ再編）

仁倉小学校校歌（作詞：大塚 盈・作曲：渡部三郎）	沿	革
三 二 一 わあ強た穿 わあ寄光拓 わあ学そ流 れあくぎて れあれるけ れあぶよれ ら果るば らば湖て ら日ぎに わた力ま わ親水遠 わ毎明沿 れ鍛さを噴 れ敬しをき れ懂のるえ らえん地く ら愛きを野 られ友くる がて友に水 がは友にの がはよ窓青 仁はよ見脈 仁美よ見末 仁潔わに柳 倉遅わたの 倉しわたに 倉られ見の 校しれ 校きれ 校け て き き き	明治３６年	９月２７日 鑑沸簡易教育所分校「川口教授所」として開設（浜佐呂間）
	明治３９年	９月１５日 現仁倉に移転
	明治４１年	４月 １日 沙溜澗教育所に昇格
	明治４３年	１１月 １日 下佐呂間尋常小学校に昇格
	大正１１年	９月２０日 補習科併置
	大正１５年	４月 １日 高等科を併置し下佐呂間尋常高等小学校となる
	昭和 ５年	１月２０日 仁倉尋常高等小学校と改称
	昭和１６年	４月 １日 仁倉国民学校と改称
	昭和２２年	４月 １日 新学制施行により佐呂間村立仁倉小学校となる
	昭和２２年	５月 １日 佐呂間村立佐呂間中学校仁倉分校を併置
	昭和２４年	１０月１１日 仁倉中学校が分校から独立し仁倉小中学校となる
	昭和２８年	４月 １日 町制施行により佐呂間町立仁倉小中学校となる
	昭和４２年	４月 １日 中学校が佐呂間中学校に統合となり仁倉小学校となる

○幌岩小中学校（幌岩中学校 平成１１年 佐呂間中学校へ統合）

（幌岩小学校 平成１８年 浜佐呂間小学校へ再編）

幌岩小中学校校歌（作詞：大塚 盈・作曲：山口祐功）	沿	革
三 二 一 賢ゆ岸広 高枝四学 若み恵朝 きう辺き きを季び きどみ霧 業べのこ 理結のの 希りのは を清あこ 想びあ庭 望のひれ らやろ をてらの を丘かし 誓なめは し にり 大 う 目天にポ 歌 うこあ山 な鐘群さ 指をつ プ うこあ山 りわれろ すなく ラ なまきに たり牛ま なき 木 ならい りに湖 り は さけ の く みく	明治４２年	４月１０日 沙溜澗教育所付属「幌岩特別教授所」として開設
	大正１３年	９月 日 川口尋常小学校「幌岩特別教授所」となる
	昭和 ５年	１月２０日 川口尋常小学校の校名改称により下佐呂間尋常小学校付属となる
	昭和 ６年	４月 １日 幌岩尋常小学校に昇格
	昭和１６年	４月 １日 幌岩国民学校と改称
	昭和２２年	４月 １日 新学制施行により佐呂間村立幌岩小学校となる
	昭和２６年	４月 １日 下佐呂間中学校幌岩分校を併置
	昭和２８年	４月 １日 幌岩中学校が分校から独立、中佐呂間中学校浪速分校を統合し幌岩小中学校となる
	昭和５２年	４月 １日 浪速小学校を統合
	平成１１年	４月 １日 中学校が佐呂間中学校に統合となり幌岩小学校となる

○富武士小学校（平成１８年 佐呂間小学校へ再編）

富武士小学校校歌（作詞：大塚 盈・作曲：松田喜一）	沿	革
三 二 一 わ富強松雲 わ富清峠丘 わ富遠朝海 れ武いのを れ武いにの れ武いのに ら士身緑か ら士信雲牧 ら士望潮続 は 体がむ は よも場 は みがいた 果富よ つ 協富 の 学富よ た た武 冴た す武友湧 ぶ武 寄 す士心え 士愛い草 士あつ湖 根て大 う よて萌 新 こてに ゆあよい山 るあ いえ しあがくる るあ るに わあ るて くあれ ぎこ こ しこ こ よ なこ こ くこ こ くに に に	大正 ４年 ４月 １日 昭和 ３年 ４月 １日 昭和１６年 ４月 １日 昭和１８年 ４月 １日 昭和２２年 ４月 １日 昭和２２年 ５月 １日 昭和２４年１０月１１日 昭和２８年 ４月 １日 昭和４１年 ４月 １日	中佐呂間尋常小学校所属「富武士分教所」として開設 富武士尋常小学校に昇格 富武士国民学校と改称 高等科を配置 新学制施行により佐呂間村立中佐呂間中学校富武士分校を併置 佐呂間村立中佐呂間中学校富武士分校を併置 富武士中学校が分校から独立し富武士小中学校となる 町制施行により佐呂間町立富武士小中学校となる 中学校が佐呂間中学校に統合となり富武士小学校となる

○若里小学校（平成１８年 佐呂間小学校へ再編）

若里小学校校歌（作詞：大塚 盈・作曲：山口祐功）	沿	革
三 二 一 興勤新明 剛澁生傾 高大明潮 す労な日 き刺気れ きいかな ものりを ものあ射 もなるる の 呼 の りす のるか 勤わぶ 澁 りひ こ労れ こ刺わ清 こ大 ろ このら若 このれき こいわき に 若き に ら朝 になれ湖 創愛里 鍛命若 学るら らの星 え讃里 ば 若 ん 挙 ん えて 行里 が りて 手の りて ぞ て みて	明治４３年 ７月２２日 大正 ４年 ７月 ５日 大正１２年 ７月 １日 昭和１６年 ４月 １日 昭和２２年 ４月 １日 昭和２２年 ５月 １日 昭和２５年１１月１５日 昭和２６年 ８月 １日 昭和２８年 ４月 １日 昭和４０年 ４月 １日	下湧別村芭露尋常小学校所属「床丹特別教授場」として開設 計呂地教育所に所属変更 床丹尋常小学校に昇格 床丹国民学校と改称 新学制施行により下湧別村立床丹小学校となる 中学校を併置 下湧別村との村界変更により佐呂間町に編入、佐呂間村立床丹小中学校と改称 字名変更により若里小中学校と改称 町制施行により佐呂間町立若里小中学校となる 中学校が佐呂間中学校に統合になり若里小学校となる

○若佐小学校（平成１８年 若佐小学校再編）

若佐小学校校歌（作詞：小林幸雄・作曲：大野恒一）	沿			革
三二一 わみ澄樹れんみ花らなむの仲ゆひ若よくか佐く心る小 学正歌このいし庭子 わ清心武れくの士の素ちの直り流若にをれ佐 小伸洗水学びい清校ゆさくり子 わみ緑朝れんに空らな映あの明えお若るるく佐い 小佐風学元呂か校気間おな山り子	明治 4 1 年	6 月	1 日	下佐呂間尋常小学校所属「猿澗教授場」として開設
	大正 3 年	4 月	2 7 日	武士教育場に昇格
	大正 3 年	9 月	5 日	武士尋常小学校に昇格
	大正 5 年	5 月	1 0 日	補修科併置
	大正 9 年	4 月	6 日	高等科を併置し、武士尋常高等小学校となる。
	昭和 1 6 年	4 月	1 日	武士国民学校と改称
	昭和 2 2 年	4 月	1 日	新学制施行により佐呂間村立武士小学校となる
	昭和 2 2 年	5 月	1 日	佐呂間村立第 2 中学校を併置
	昭和 2 3 年	4 月	1 日	分村により若佐村立武士小中学校となる
	昭和 2 3 年	6 月	2 3 日	若佐小中学校と改称
	昭和 2 4 年	1 1 月	1 日	併置中学校分離独立
	昭和 3 1 年	9 月	3 0 日	佐呂間町との合併により佐呂間町立若佐小学校となる
	昭和 6 1 年	4 月	1 日	栃木小学校を統合

○佐呂間小学校（平成１８年 佐呂間小学校再編）

佐呂間小学校校歌（作詞：大塚みつる・作曲：千葉日出城）	沿			革
三二一 雄競貫白 しいけ樺 い励 意め佐白 気ば呂樺 が 間 冬小ふ 燃の学ぶ え日校く ても 路 くる 新海求湖 たにめ なつよ湖 潮ら をな佐う る呂つ 寄 間る せさ小空 てざ学 く波校 るが みき望朝 んよめ霧 なうよ のも 朝 夢流佐霧 をれ呂 る間晴 呼 小れ ん青学る で雲校山 いが る	明治40年	6月15日	鑑沸簡易教育所分校川口教授所の第一特別教授所として開設	
	明治41年		沙溜澗教育所所属第一特別教授所と改称	
	大正 2年	9月 1日	中佐呂間尋常小学校に昇格	
	大正 4年	4月 1日	中佐呂間尋常小学校所属富武士教授場設置	
	大正 7年	5月25日	中佐呂間尋常小学校と改称	
	大正12年	4月 5日	中佐呂間尋常高等小学校と改称	
	昭和 2年	4月 3日	中佐呂間尋常小学校所属富武士教授場が特別教育規定により独立	
	昭和16年	4月 1日	小学校令改正により、常呂郡中佐呂間国民学校となる	
	昭和22年	4月 1日	学制改革により常呂郡佐呂間村立中佐呂間小学校と改称	
	昭和26年	8月 1日	常呂郡佐呂間村立佐呂間小学校と改称	
	昭和28年	4月 1日	町制が施行され、常呂郡佐呂間町立佐呂間小学校と改称	

○若佐中学校（平成１８年 佐呂間中学校へ統合）

若佐中学校校歌（作詞：大塚 盈・作曲：松田喜一）	沿	革
三 二 一 若承明う夕 若通まひ風 若求望はみ 佐け日る映 佐いこびの 佐めあるは つあわえ 来とき木 きれかる 若ぎれしの 若てあ合々 若て なか 佐て や 佐 れう 佐 湖りす 雲 雲 我 道 我とこ湖 中我とこ燃 中等風こに 中等明こ湖 学等新この 学 とこのそ 学 るこのか 我等創に愛立 我等磨清しせぎ 等ば ん 眼びろく ら 土ち んくせらぎ しく	昭和２２年 ５月 １日	佐呂間村立第２中学校として開校（若佐小学校に併置）
	昭和２２年 ７月 １７日	武士中学校と改称
	昭和２３年 ４月 １日	分村により若佐村立武士中学校となる
	昭和２３年 ６月 ２３日	若佐中学校と改称
	昭和２４年 １１月 １日	単置校となり上佐呂間中学校を統合（分校として所属）
	昭和２７年 ３月 ３１日	上佐呂間分校廃止
	昭和３１年 ９月 ３０日	佐呂間町との合併により佐呂間町立若佐中学校となる

○浜佐呂間中学校（平成１８年 佐呂間中学校へ統合）

浜佐呂間小中学校校歌（作詞：坂本 亮・作曲：津田 甫）	沿	革
三 二 一 こ描よく夕 こ築はオ澄 こ学あ朝イ のころれや のこばホみ のぼかかワ うこなけ うたしわ うるぜケ よ びいの よ くツた よ いにシ い花 に いゆ クる いた の 丘咲あ 雲 丘たのの 丘しひそ のくふそを のかぞ 空 のかとよ山 れま なみ遠に なみぐが 学夢るるう 学 をい 学 と 校をるつ 校里 い 校知 しか で 胸サし でを仰汐れ で恵声らが に口て んぎざて をでかや み マ い みんな ばき ん 湖 い な な	大正 ４年 ４月 １日	下佐呂間尋常小学校所属「川口教授所」として開設
	大正 １３年 ５月 ７日	川口尋常小学校に昇格
	昭和 ５年 １月 ２０日	下佐呂間尋常小学校と改称
	昭和 ５年 ４月 ７日	高等科を併置し下佐呂間尋常高等小学校となる
	昭和 １６年 ４月 １日	下佐呂間国民学校と改称
	昭和 ２２年 ４月 １日	新学制施行により佐呂間村立下佐呂間小学校となる
	昭和 ２２年 ５月 １日	佐呂間村立下佐呂間中学校を併置
	昭和 ２８年 ４月 １日	町制施行により佐呂間町立下佐呂間小中学校となる
	昭和 ３０年 ７月 １日	字名変更により浜佐呂間小中学校と改称

○浜佐呂間小学校（令和８年 佐呂間小学校へ統合）

浜佐呂間小学校校歌（作詞・作曲：松田 彰光）	沿 革
三 二 一 創ろく我等の学 尊き恵を 清き心に映える 夕日に 浜佐呂間小学校 創ろく我等の学 明日の夢に 波は奏でる 広き海原 羽ばたこう 浜佐呂間小学校 創ろく我等の学 仲間みわめ 笑みの絆 仲間の交わり 庭に受けて 浜佐呂間小学校	平成１８年 ４月 １日 学校再編成により佐呂間町立浜佐呂間小学校となる

社 会 教 育

社会教育目標

人生100年時代を迎え、ゆとりと活力に満ち、健やかに過ごしたいという町民の共通の願いがあります。このことから、文化・スポーツなどを通じて生きがいを創造し、豊かな地域づくり・人づくりを目指して主体的に学習実践する町民の育成に努めるため、この社会教育目標を制定します。

人々を 地域を 夢を育む サロマの未来

【知】 未来を語り ともに学び 自ら創り出す サロマ人に

「人は地域を造り、地域は人を作るがごとし」と言われ、先人の知恵を媒体に、個々人は生きて働く力を持つ必要があります。現実を踏まえつつも、未来に夢を抱き、ともに学び続ける意欲を形成することによって時代の変化に対応できる資質の向上を図り、創造する人間像を目指すものです。

【情】 自然を愛し 人を愛し ふるさとを愛する サロマ人に

郷土に生きる喜びを、ともに分かち合い、心豊かで潤いのある社会生活の維持向上のため自然や人々との触れ合いを大切にするとともに、郷土芸能や伝統文化等を介して情操豊かにして、温か味のある人類愛を創造する人間像を目指すものです。

【意】 汗を尊び ぬくもりのある 地域づくりを目指す サロマ人に

勤労を喜びとし、自己啓発をはかり、日々の生活に生きがいを感じ、ゆとりと充実の中に、住民一人ひとりが地域に目覚め、地域とともに成長することを願い、地域に根ざした諸活動への積極的な参加を通して、地域づくりを創造する人間像を目指すものです。

【体】 大地とともに生き たくましく躍動する サロマ人に

大自然の豊かな恵みを受け、心身ともに健康で明日を夢見る生活環境を構築するために健全な心身への関心をもち、日常的に運動に参加し、スポーツの生活化をはかり、生き生きと健康で長生きのできる社会を創造する人間像を目指すものです。

(平成8年2月1日制定)

(令和3年2月17日一部改訂)

■ 解 説

緑豊かで、朝陽に輝く湖、風光明媚な郷土で先人達は、1世紀にわたって己に夢を抱き、ロマンを求め不屈の開拓精神を駆使し、今日的な活気のある佐呂間町の繁栄を築きあげてきました。この先人の残した貴重な伝統を受け継ぎ、21世紀に羽ばたく町民像を創造し、来るべき社会にふさわしい町民の意識や行動の変容が期待されています。

そして町民憲章の英知と友愛と勇気の精神の響きは大きな夢に波及し、人々に生き甲斐と潤いを持たせ、佐呂間町に「住みたい」、「住んでよかった」という未来のサロマを強く希求します。特に今日的課題である『人間性の欠如』に関わって、佐呂間町特有の大自然の優しさ・厳しさを媒体に人々を育み、高い知性とあふれる創造力をもって思いやりや、たくましいサロマ人としての誇り高い町民像を目指したものです。

◆ 推進目標

- 乳幼児教育 親と子の健やかな愛を育む、乳幼児教育の推進
- 少年教育 たくましく豊かな心を育む、少年教育の推進
- 青年・成人教育 潤いと豊かな明日を創る、青年・成人教育の推進
- 高齢者教育 健康で生きがいのある、高齢者教育の推進

■ 解 説

人間は生涯にわたって発達するものであり、発達段階にふさわしい教育目標を設定し、その具現化のために、人的・物的な諸条件を整備充実することにより望ましい人間が形成されるという仮説を立て、方向目標として制定したものです。各目標は、佐呂間町ばかりでなく、広く今日的課題として考察し、未来に希求するサロマの人間像として示したものです。特に、21世紀は心の時代ともいわれ、各発達段階において、必要課題や要求課題等を十分に検討し、達成目標を掲げ施策を試みる必要があります。町民の意識では、全体として、『健やか・たくましさ・潤い・生きがい』を求めていることを踏まえ、町民のニーズに応える内的要求・外的要求を組み合わせながら人間性豊かな人格を形成することを目指しています。

◎ 第9次社会教育中期計画のキーワード

『寛 容』

- ・課題を抱える人が孤立せず、地域として互いの立場を尊重しながら建設的な支え合いをすることが、情報化社会の今日であっても必要とされています。
思いやりの精神で共に成長する社会が今こそ求められています。

『多 彩』

- ・「十人十色、人の数だけ個性がある」
いろいろな価値観のある中、個性の数だけ輝いて変化に富んだ魅力的な社会を構築し、誰もがウェルビーイング（幸福感）を感じることが大切です。

『躍 動』

- ・「毎日を生き生きと楽しく」
社会環境が激しく変化する現代にあっても、みんなが生き生きと楽しく、幸福と生きがいを実感して暮らせる社会が求められています。住民（町民）が地域コミュニティの中で「躍動」できる地域社会を作っていくことが大切です。

◎ 第8次社会教育中期計画のキーワード

『多様性』

- ・「みんなちがって、みんないい」
近年、多様な人達・価値観・思考が顕在化しています。
それらの多様性を受け入れ活用し、誰もが尊重され活用できる社会の構築が望まれます。

『いのち』

- ・世界各地で自然災害の発生、地域紛争の勃発、そして新たな感染症の拡大など、今多くの命が脅かされています。
改めて一人ひとりが命の大切さを自覚し、尊い「いのち」を考えることが大切です。

『変 革』

- ・自然、科学、社会、教育など、私達の日常を取巻く環境は大きく変遷してきました。今後更に変化が予測される社会では変えてならない大切なものを堅持しながら、時代の変化に適応した変革が必要です。

◎ 第7次社会教育中期計画のキーワード

『寿世代』（佐呂間町の社会教育において、60歳以上の世代を呼称する。）

- ・皆長寿社会が定着し、あらゆる方面で、「寿世代」の存在感が増しています。
今後、生産現場に限らず、ふるさとづくりにおいても、「寿世代」が培った知識・技能を活かすことが期待されています。

『居場所』

- ・すべての人が、生き生きと暮らすために、家庭・地域・学校・職場など様々なところで、一人ひとりの「居場所」が必要です。
子どもから「寿世代」まで、あらゆる世代の「居場所」づくりが求められています。

『双方向』

- ・社会が大きく変遷する中、人間関係の希薄化が進み、5年前の東日本大震災以降「絆」やより強い人の繋がりが求められています。
「双方向」からの情報の共有や交流事業を推進し、「学び合う、育ち合う、高め合う」関係をつくる事が必要です。

令和8年度 社会教育関係事業

領 域		子育て					
課 題		○ＩＣＴのさらなる学習が必要である。 ○子供の多様な特性に対する理解が必要である。 ○子育てに関わる事業の情報をいきたらせる必要がある。 ○地域で子育てをする意識を高める必要がある。					
方向性		○ＩＣＴの学習機会の提供 ○多様な特性を知り学ぶ場 ○子育て事業の情報発信の工夫 ○幅広い世代での交流の場・機会					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期日	開催場所	人数	備 考
社教	あいあいらんど	乳幼児期の子どもと親を対象に、家庭ではなかなかできないことや四季折々の行事を体験することで、子どもたちの集団生活への適応性・コミュニケーション能力の向上、子ども同士、親同士の交流を推進する。	未就学児とその親	①7月15日 ②7月16日 ③9月30日 ④10月14日 ⑤12月16日 ⑥1月20日	①町民センター ②佐呂間保育所 ③流水公園 ④町民センター ⑤町民センター ⑥保育所駐車場	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	子育て支援センター、社会教育課、保健福祉課共催 （①えんにち②ミニコンサート③バス遠足（道立オホーツク流水公園）④親子ミニ運動会⑤クリスマス会 ⑥雪中運動会）
社教	お話あいあい	乳幼児期の子どもを持つ親を対象に、子育てに関する情報を提供することで子育てに対する不安の軽減を図るとともに、子育てについてともに考える仲間づくりを推進する。	未就学児とその親	①5月13日 ②6月3日 ③6月17日 ④8月26日 ⑤9月16日 ⑥11月25日 ⑦2月3日 ⑧2月17日	子育て支援センターほか	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	子育て支援センター、社会教育課、保健福祉課共催 （①歯の大切さ（1・2歳児～）②歯の大切さ（妊婦・0歳児）③救急処置法（0・1歳児）④言葉を育む関わり方⑤ヨガ⑥救急処置法（2歳児～）⑦親子ふれあい体操（2歳児～）⑧親子ふれあい体操（1歳児））
社教	家庭教育学級	親（地域住民）が子育ての知恵を得たり、子ども達にとって望ましい地域環境づくりを進めるための学習機会の場として、学校地域内を中心に開催する。	町内小中学校	随時	学校等		講師謝礼及び消耗品費を教育委員会が支出上限額 ・講師謝礼（年間）20,000円 ・消耗品費（年間） 5,000円
社教	家庭教育講演会	家庭教育の重要性を再認識させ、地域の教育力の向上を図る。	乳幼児・児童生徒を持つ親、祖父母ほか	11月21日	町民センター		町PTA連合会の研究大会に合わせて実施 講師：塩谷隆治氏（予定）
社教	子育て講座	町内の親子等が協力して地域の産業などについて学び、地域の食、いのちの大切さ、家族のふれあいなどについて、学ぶ機会を提供するとともに、幅広い世代の交流の場を提供する。	乳幼児・児童生徒とその親、祖父母ほか	未定	未定		企画内容は家庭教育推進会議で検討（家庭教育推進会議と共催）
社教	家庭教育推進会議	地域ぐるみで子育てを行う意識を高め、また地域の力を生かして子育て事業の展開を図る。	子育て関係機関等	年3回程度予定	町民センター等		関係機関（子育て支援団体、PTA、スポーツ少年団本部、保健師、子育て支援センター、社会教育課）の情報交換 家庭教育講演会、子育て講座等事業について検討
ｽｰ	元気アップ運動ひろば	（詳細「健康づくり・スポーツ」領域に掲載）					
図書	ブックスタート	（詳細「図書館」領域に掲載）					

領 域		育 ち					
課 題		○ＩＣＴの危険性・利点等に対する学習が必要である。 ○幅広い世代との交流が必要である。 ○多岐にわたる体験が必要である。 ○社会教育事業の周知・意見収集が必要である。					
方向性		○ＩＣＴを有効に活用する学習機会の提供 ○人材を活用した交流・学習の場の提供 ○社会教育事業の周知の向上 ○ＩＣＴを活用した情報発信					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期日	開催場所	人数	備 考
社教 社体	わんぱく広場	地域の身近な自然・人材を活用することにより、ふるさに対する愛着心の向上を促すとともに、各種体験活動を通じ、学校間、異年齢間の交流を図る。	小学4～6年生 中学生	7月29・30日	町民センター		
社教	サイエンスキャラバン	町内の子どもや町民に科学への関心を高めるとともに、実験を通して親子のふれあいや、大人と子どもの交流を深める。	小学生以下等	2月21日	町民センター		子ども会育成会連絡協議会共催 かまくら雪まつりと同日開催 管内理科教員等の協力により、科学実験・工作を行うブースを設置
社教	子育て講座	（詳細「子育て」領域に掲載）					
社教	佐呂間高校生フォトコンテスト	（詳細「学び」領域に掲載）					
社教	さろま生涯学習フェスティバル（仮称）	（詳細「学び」領域に掲載）					

領 域		学 び					
課 題		○学びの多様化に対応した事業が必要である。 ○外国籍住民と地域住民との相互理解や交流の機会が必要である。 ○子育て世代には、親子で参加できる学びの場を提供する必要がある。 ○人との交流を大切にしなければならない。 ○誰もがそれぞれの状況に応じ、学べるよう支援する必要がある。					
方向性		○ＩＣＴの活用などで学びの選択肢を広げる ○地域住民と外国籍住民との学びや交流の場の支援 ○親子で参加する体験型事業の充実 ○状況に応じた学びへの環境づくり					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人 数	備 考
社教	佐呂間高校生フォトコンテスト	佐呂間高校と地域のつながりや地域創生に向けた高校の魅力化を図るとともに、高校生の郷土愛の醸成を目的に事業を展開する。	佐呂間高校 1・2年生	4月24日～1月末（撮影期間）	町内		佐呂間高校と共催 4/24：R7年度表彰式、岸本氏講演、R8年度事業説明を実施 R7年度作品巡回展示を実施（佐高・町民センター・若佐コミセン・浜佐呂間活性化センター・道の駅・サンガーデン・佐中等予定）
社教	町民講座「夢工房」	町民が心豊かな生活を送れるよう、また多様な学習要求に応える機会を提供し、学習意欲の向上と日常化を促す。併せて、町内の指導者を活用し新たな人材の育成を図る。	町民 （講座内容により設定）	①8月5日 ②9月12日 ③12月19日	①佐呂間高校 ②町民センター ③町民センター		①佐々木理有氏「スマホ写真教室」 ②安保真氏「滲み画教室」 ③サタアート共催「布ツリーをつくろう」
社教	（新）さろま生涯学習フェスティバル（仮称）	町内の学習活動・文化活動を広く子どもたちや町民に体験してもらい、活動参加のきっかけにつなげるとともに、町内の団体活動の活性化を図る。	全町民	11月頃予定	町民センター		
社教	寿大学	（詳細「生きがいきり」領域に掲載）					

領 域		生きがいきり					
課 題		○個人の価値観や環境にあった支援が必要である。 ○町民の知識や特技を地域に活かせる場が必要である。 ○幅広い視点と選択肢が必要である。 ○誰もが社会との繋がりを感じられる環境が必要である。					
方向性		○個々に対応した生きがいきりへの支援 ○地域や世代を超えた交流の推進 ○多様な選択肢の提供 ○誰もが取り残されることのない地域や社会の繋がりのための環境支援					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人 数	備 考
社教	寿大学	高齢者の生きがいきりに寄与するとともに、高齢者の持つ豊富な経験や能力の活用を図る。	60歳以上	通年	町民センター 他	学生88名 （R8.4.8現在）	・クラブ活動を通じて児童、生徒との異世代交流を検討 ・在学生を講師とした講座を設け、知識や特技の伝達・発信を実施 ・高齢者世帯や独居の方へオープンキャンパスによる、寿大学の周知・勧奨を継続
社体	さろまスポーツクラブ	（詳細「健康づくり・スポーツ」領域に掲載）					
社教	町民講座「夢工房」	（詳細「学び」領域に掲載）	町民	随時			・町民を講師として積極的に活用する。 ・人材の発掘に努める。
社教	さろま生涯学習フェスティバル（仮称）	（詳細「学び」領域に掲載）					

領 域		健康づくり・スポーツ					
課 題		○障がい者や外国籍住民に対応した事業の拡充が必要である。 ○各ライフステージに対応した事業の拡充が必要である。 ○多様化するニーズに対応した事業の拡充が必要である。 ○社会環境の変化等に適応した環境づくりが必要である。					
方向性		○様々な人に対応した事業の推進 ○指導者の確保・育成 ○社会環境の変化に対応した事業の推進（ＩＣＴの活用等）					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人 数	備 考
社体	サマ湖100kmウルトラマソン	今年で第41回目を迎えるサマ湖100kmウルトラマソン。湧別町を5時にスタートし雄大なサマ湖を望みながらフィニッシュの北見市常呂町を目指します。（50kmの部は100年広場10時スタート）	成人	6月28日	北見市常呂町 佐呂間町 湧別町		
社体	出前講座	学校での運動事業に対し、スポーツ推進委員を派遣し、新しいスポーツの体験や交流を図る。	小学生	随時			学校と協議し実施予定
社体	スターまつり	スポーツ推進委員が企画運営し委員活動の活性化及び施設の利用促進並びに町民相互の交流を図る。	幼児 ～ 小学生	10月12日	スター		体力測定、ニュースポーツ、運動体験、プール開放、絵本読み聞かせ

社体	スポーツ振興助成	本町のスポーツ振興に寄与するスポーツ団体・個人に対し助成を行い、町民の心身の健全な発達とスポーツ意識の高揚を図る。	全町民	随時			全道大会、全国大会、選抜大会参加経費の一部を助成
社体	スポーツ表彰	スポーツの振興に寄与した者及び優秀な成績を収めた者を表彰する。	全町民	10月12日 スターまつりと併催	武道館		・スポーツ功労賞 ・スポーツ奨励賞 ・スポーツ特別賞
社体	学校開放事業	本町のスポーツ振興のため学校体育施設を学校教育に支障のない範囲で開放し、地域住民の健康増進及びコミュニティ形成に寄与する。	全町民	随時	各小中学校		利用種目 佐小：バレー、ミニバス、野球、バドミントン 若小：ミニバレー 佐中：バドミントン
社体	スポーツチャレンジday	スポーツ推進委員が企画運営し、様々な種目を実施することで子ども・親子でスポーツの楽しさを体験し、運動習慣や協調性を学ぶ場を提供する。	小学生	2月11日	町体育館		冬ならではの外遊びや室内でニュースポーツ体験を実施予定
社体	健康ウォーキング	スポーツ推進委員が企画運営し、町民の健康増進、運動の習慣化を図り、更には町民相互の交流を図る。	全町民	①秋 ②2月11日	①未定 ②未定		①コース未定 ②コース未定（スノーシューウォーキング）
社体	さろまスポーツクラブ	スポーツ機会の創出や町体育館の利用促進、町民相互の交流促進を図る。	成人 中学生以上	秋～冬頃	町体育館		各種スポーツ体験事業
スター	さろま健康づくり講座	スターの施設を活用した健康づくり講座を外部講師を招き開催。	成人	未定	武道館		*エアロビクス・ヨガ等
社体 スター	からだはぐくむスクール 「ちびっこスキー教室」 「ちびっこ運動教室」	就学前児童に対し、就学に備えた体力づくりとスポーツの楽しさを理解させる。	R9年度新1年生	全3回 1月16日～30日	町営スキー場		毎週土曜日、3回開催予定 ※指導協力：スキー協会、スポーツ推進委員
				全3回 2月13日～27日	武道館		*毎週土曜日 13:30～14:15 *指導協力：山崎指導員
社体 スター	冬期健康プログラム 「こども運動塾」	小学生の運動能力と挑戦する気持ちを引き出す。	小学1～6年生	【低学年】 1月13日～3月17日 【高学年】 1月8日～3月12日	武道館	各25名	*毎週水曜日（低学年） *毎週金曜日（高学年） *16:00～17:00 全9回 *指導協力：山崎指導員
スター	元気アップスイミング 「ちびっこコース」	施設の利用方法やプールにおける約束事の確認をしながら初歩の水泳を学ぶ。	R9年度新1年生	【Aコース】 7月15日・22日・29日 【Bコース】 7月16日・23日・30日	温水プール	各10名	*Aクラス 16:30～17:20 *Bクラス 16:30～17:20 *事業協力：水泳指導員外
スター	元気アップスイミング 「ジュニアスイミングコース」	各レベルに応じた段階的指導を行い、楽しみながら水泳を学びプールが好きになる教室運営を目指す。	小学1～3年生	5月12日 ～ 7月10日	温水プール	各12名	*指導内容：水なれ～クロール息継ぎ *4クラス・各9回 *毎週火曜日～金曜日16:00～17:00 *事業協力：水泳指導員外
スター	元気アップスイミング 「ジュニアスイミング&体幹トレーニングコース」	陸上でのトレーニングと水泳を組み合わせ、総合的な運動能力向上と泳力の向上を目指す。	小学4～6年生	8月20日 ～ 10月22日	武道館及び 温水プール	各15名	*指導内容：水中での体幹トレーニング（発育発達運動）及び水泳の各種泳法 *2クラス・各9回 *毎週木曜日16:00～17:10 *毎週金曜日16:00～17:10 *事業協力：水泳指導員外
スター	元気アップスイミング 「マスターズコース」	水中運動及び初歩の泳法クラスを設定し、健康維持・増進を図る。	中学生以上	8月21日 ～ 9月18日	温水プール	10名	*令和8年度再開 *指導内容：水中運動及び初歩のクロール練習 *5回コース *金曜日18:30～19:15
スター	冬期健康プログラム コンディショニング&トレーニングミニ講座	気軽に参加できる各種トレーニングに関する講座を開催し、町民の健康維持・増進と施設の利用促進を図る	高校生以上	1月～3月	武道館	各10名	ストレッチング、コンディショニング、筋力運動等のミニ講座
スター	元気アップ運動ひろば	武道館の空き時間とスペースを活用し、各種トレーニングや卓球、運動遊び等による健康づくりの場を提供する。	乳幼児・小学生 （保護者同伴） ～成人	4月1日 ～ 3月31日	武道館	—	*平日（火～金）10:00～21:00 *土・日・祝 10:00～17:00 *スター事業、武道利用、その他団体使用時は中止
スター	パーソナル指導	利用者の目的に合わせた各種トレーニング及び水泳・水中運動の個人指導	幼児 ～ 成人	5月8日 ～ 3月31日	温水プール トレーニングルーム 会議室 他	1～5名	*事前予約制 *1人年間10回まで、月2回まで申込み可（但し、プールでの指導はシーズン中1人5回まで） *陸上でのトレーニング指導は小学生以上 *3名以上の指導は18歳以上が対象
スター	指導者派遣事業	指導者派遣依頼・教室開催要望等へ対応	—	通年	スター 他		*1団体につき年間3本まで
スター	冬期健康プログラム 「らくらく健康体操」	中高齢者向けに健康体操教室を実施する。	成人 （高齢者向け）	1月7日 ～ 3月16日	武道館	50名	*毎週火・木曜日 全18回 *13:30～14:15
スター	(新) 冬期健康プログラム 「サンデーモーニングレッスン」	幅広い世代に対し運動不足解消、健康維持・増進に向けた教室を実施する。	成人	2月7日 ～ 2月28日	武道館 等	5～10名	各種フィットネス講座等の開催 *令和8年度新規 *全4回 *日曜日10:30～11:15
スター	健康スノーシューコース開放	冬期間の100年広場を活用した屋外スポーツ活動の場を提供することで、町民の健康維持・増進を図る	町民	2月～3月	100年広場（パークゴルフ場及び多目的広場）	—	*貸出用用具設置
スター	日本水泳連盟認定泳力検定会	日本水泳連盟認定の泳力検定を通じて、水泳技術の向上を図る。	小学生以上	10月30日	温水プール	—	*18:30～19:30
スター	水泳指導者講習会	水泳の指導理論及び指導実技研修	町内水泳指導員	5月23日	温水プール 他		テーマ「クロールと平泳ぎの効果的な指導法について」 講師「（株）スコーレ 澤田道伸」

領 域		施 設			
課 題		○気候変動や社会構造の変化に対応する施設運営が必要である。 ○老朽化への対応が必要である。			
方向性		○利用者が安全かつ快適に利用できる施設環境の整備 ○利用条件の緩和 ○新たな利用方法の検討 ○集約化を含む計画的な施設整備			
係	施 設 名	主な施設整備	開設年度	休館日・利用時間等	備 考
社教	町民センター	①町民センター街灯取替工事 【事業費：2,717千円】 ②町民センター照明LED化工事 (屋内照明1階部分・屋外窓上 116台) 【事業費：2,618千円】	昭和52年	休館日：12/29～1/5 利用時間：午前9時～午後10時	
社教	開拓資料館	施設の維持管理を継続して実施	昭和52年	休館日：12/29～1/5 利用時間：午前9時～午後5時	
社体	体育館	①アリーナ照明電球取替工事 【事業費：3,152千円】 ②駐車場街灯取替工事 【事業費：1,463千円】	昭和47年	①休館日 ・毎週木曜日 ・国民の祝日に関する法律に規定する休日の翌日 ・12/29～1/5 ②利用時間 ・月、火、金 午後1時～午後9時 ・水 午後1時～午後9時30分 ・土、日 午前9時～午後5時	① 昨年9月以降に相次いで玉切れし、全45灯のうち約4分の1が玉切れしたことから電球を取り替えるもの。LED灯への更新は事業費が多額となることから、安価なセラミックメタルハライドランプへ交換する。 ②街灯が玉切れしていることからLED灯に取り替えるもの。支柱は既存のままで灯具のみ取替。
社体	スキー場		昭和59年	利用期間：1月～3月 利用時間： 2月まで 10時～21時 3月平日 16時～21時 3月土日 10時～16時	
社体	100年広場	施設の維持管理を継続して実施	平成4年	利用期間は各施設利用可能な期間とし利用時間は施設によって異なります。	
社体	屋外体育施設	①屋外体育施設除草剤散布業務（即効性） ・若佐PG場、100年広場（PG場、多目的広場）、浜佐呂間PG場 【事業費：1,133千円】 ②屋外体育施設除草剤散布業務（遅効性） ・若佐PG場、100年広場（PG場、多目的広場）、浜佐呂間PG場 【事業費：1,650千円】 ③パークゴルフ場等芝生整備工事 ・100年広場パークゴルフ場エアレーション施工 【事業費：1,507千円】	佐呂間パークゴルフ場 平成4年 若佐・浜佐呂間パークゴルフ場 平成10年 佐呂間テニスコート 昭和55年 総合グラウンド 昭和47年	利用期間は各施設利用可能な期間とし利用時間は施設によって異なります。	①・②：R3年度の旱魃による被害からの芝生再生事業として、芝生の再生を阻害する雑草の駆除を目的としてR4年度に除草剤を散布し、その効果が確認されたため引き続き実施するもの。 ③100年広場パークゴルフ場の芝生維持管理のため、エアレーションを実施 ※エアレーションとは、芝生の土壌に穴をあける作業のことで、密生した根茎をほぐし発根を促すとともに、通気・通水性を向上させるもの。
スター	武道館・温水プール	①中央監視自動制御盤更新工事 【事業費：8,723千円】 ②非常用照明装置更新工事 【事業費：9,482千円】 ③小プール塗装修繕 【事業費：1,342千円】	平成6年	休館日 ・毎週月曜日 ・国民の祝日に関する法律に規定する休日の翌日 ・12/30～1/6 利用時間 ・午前10時～午後9時 ・土、日、祝日は 午前10時～午後5時 *温水プールの開館は5～10月	①空調機及び暖房設備等の自動制御盤更新工事（1階機械室3台、2階機械室1台） ②プール、武道館、ロビー等の非常用照明装置の更新工事 ③小プール本体の長寿命化に向けた塗装処理

領 域		団体支援			
課 題		○支援制度の情報発信を強化する必要がある。 ○団体の存続、活動のための支援を強化する必要がある。			
方向性		○各団体による情報発信に対する支援 ○団体間の交流や連携の支援			
係	団体名	趣 旨	活動内容等	備 考	
社教	子ども会育成会連絡協議会	各種事業・研修会の実施、子どもたちの健全育成、リーダーの育成、さらには地域の教育力の向上など、町内の単位子ども会の活動を推進するため、町内の子ども会育成会で組織する「子ども会育成会連絡協議会」に対し支援する。	単位子ども会への補助金の交付、単位子ども会の交流促進、サイエンスファンの共催等 【補助金予算額276,000円】		
社教	P T A 連合会	親と教師が相互に連携し、研修会への参加や研究大会の開催、地域の教育力の向上など、町内の小、中学校及び高校のP T Aで組織する「P T A連合会」の活動に対し支援する。	各学校PTA間の交流促進、研究大会開催、上部団体への参加、研修会参加 【補助金予算額145,000円】		
社教	文化連盟	町民に成果を発表、鑑賞する機会を提供し、地域の芸術文化の振興に寄与するなど、本町の文化活動の中心となる活動している「文化連盟」の活動に対し支援する。	各単位団体への補助金の交付、総合文化祭開催、交流事業の実施、広報誌の発行、上部団体への参加 【補助金予算額600,000円】		
社体	スポーツ協会	スポーツの普及並びに団体の活性化を図るため、教室の開催や加盟団体との連携を図っている「スポーツ協会」の活動に対し支援する。	各単位協会への補助金の交付・活動支援、町内スポーツ大会の開催、上部団体への参加 【補助金予算額1,200,000円】		
社体	スポーツ少年団本部	少年スポーツの普及並びに活性化を図るため、教室の開催や加盟団体との連携を図っている「スポーツ少年団本部」の活動に対し支援する。	各単位団体への補助金の交付・活動支援、体力測定会の実施、上部団体への参加 【補助金予算額383,000円】		
社教・社体	佐呂間町文化・スポーツ活動促進事業	町民の文化活動及びスポーツ活動の活性化と技術力、競技力、指導力の向上を図るため必要な講習会及び実技指導の実施若しくは講習会等への参加に係る経費に対して補助金を交付する。	【補助金予算額500,000円】		
社教	さろま生涯学習フェスティバル（仮称）	（詳細「学び」領域に掲載）		各団体の活動発表、会員募集の場の提供	

領 域		芸術・文化					
課 題		○文化講演会はターゲット層に沿った種類や数を増やす必要がある。 ○芸術文化支援事業は事業実施団体の発掘、補助、フォローアップを一連とした支援と見直しが必要である。 ○文化団体が地域の中で果たすことのできる役割について、検討する必要がある。					
方向性		○幅広い対象者に対応する文化講演会の計画的な実施 ○芸術文化支援事業実施団体の発掘や育成支援 ○団体・サークルへの活動支援 ○団体・サークルの活動の場の調査と情報提供					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人 数	備 考
社教	ミニ劇場	幼児に生の芸術に触れる機会を提供し、創造性を養い、豊かな情操を育む。	町内保育所児・その他幼児ほか	7月16日	佐呂間保育所		幼児向けの音楽コンサート（ひのき屋）
社教	少年文化劇場 （小学生・中学生対象）	芸術鑑賞の機会を提供することにより、文化に対する理解と親しみを深めるとともに、情操面での発達を促す。	小・中学生全員	①9月10日 ②8月27日	①佐呂間小学校 ②佐呂間中学校		①演劇「ミクロの三銃士」（劇団トマト座） ②弦楽五重奏（ミュージックギャラリー）
社教	ジョイントコンサート	中学校吹奏楽部と高校吹奏楽局が、日頃の練習成果を広く町民に発表する機会を提供するとともに、吹奏楽OBを中心に賛助出演者を募集し、一堂に会して演奏することで、親睦と技術の向上を図り、また他の楽器や団体とのコラボ企画を加え、より多くの町民に、音楽を身近に感じ楽しめる鑑賞機会を提供する。	全町民	12月5日	町民センター		R6年度から、佐呂間中学校吹奏楽部と佐呂間高校吹奏楽局と共催で実施（R4・R5年度は後援）
社教	ミニ・ギャラリー	各種作品の発表の場及び観賞の場を提供することで、芸術文化の振興を図る。	全町民	随時	町民センター 1階ロビー		
社教	現代墨絵作家 「安保 真」作品展 （墨絵教室の開催）	佐呂間町出身芸術家の作品を町内の多くの方に観てもらうとともに、墨絵（滲み画）原画の作品展とおし芸術活動の楽しさや素晴らしさを知る機会を提供し、豊かな心と感性を育み、芸術への関心を高めてもらう機会とする。	全町民	9月8日～27日	図書館		墨絵、滲み画ほか原画を展示 滲み画教室開催予定（町民講座欄に記載）
社教	芸術文化支援事業	佐呂間町内における芸術文化公演等の鑑賞機会の充実を図り、また町民の自主的な芸術文化活動の活性化を図る。	全町民				・事業費補助 ・会場使用料免除 ・チケット取り扱い ・町民センター優先予約 ・名義後援
社教	文化講演会	町が主催で著名人による講演会を開催し、町民の文化意識を高め、芸術文化活動の活性化を図る。	全町民				内容未定
社教	芸術文化表彰	芸術文化の振興及び普及発展に顕著な事績又は功績のあった者を表彰する。	全町民				
社教	二十歳の成人式 記念事業	二十歳の門出を祝福するとともに、新たなスタートへの自覚を促す。	平成18年4月2日～ 19年4月1日までに 生まれたもの	1月10日	町民センター		二十歳の成人式の祝賀行事として、二十歳の成人式終了後に鑑賞事業を実施。
社教	音届けコンサート	音楽家と佐呂間高校吹奏楽局員で演奏グループを結成し、町内各所に出向いてコンサートを開催することで、音楽を身近に感じてもらうとともに、出演する高校生にとっても成長する機会を提供する。	全町民	未定	町内各学校等		佐呂間高校吹奏楽局と協力して実施
社教	（新） 写真展「サロマベツ原野移住と帰郷」	佐呂間町栃木地区への入植、その後の帰郷の様子を記録した写真展を開催することで、佐呂間町の歴史、先人の苦労について学ぶ機会を提供する	全町民	8月1日～31日	栃木公民館 町民センター		8/1-2 栃木公民館 8/4-31 町民センター

領 域		文化財					
課 題		○特色ある基幹産業（ホタテの養殖、シソの蒸留など）の歴史・資料を保存・展示する必要がある。 ○資料の充実が必要である。 ○目的を明確にした資料館と展示室の棲み分けを行う必要がある。 ○資料の発掘や記憶の文化財（経験談や歴史）を後世に残す必要がある。					
方向性		○開拓資料（基幹産業）の計画的な収集保存 ○街並みの変遷の資料収集保存（若佐・浜佐呂間等各地域含む） ○開拓資料館の展示方法の工夫 ○開拓資料館・町民センター展示室の用途を明確にした情報発信 ○記憶の文化財の保存 ○説明ボランティアに代わる方法の検討（映像、音声ガイドンス、QRコード）					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人数	備 考
社教	佐呂間の歴史を学ぶ （小学生フィールドワーク）	小学生の社会科の学習において、佐呂間町の開拓の歴史に触れてもらう機会を提供し、先人たちが開拓した当時の様子や生活の移り変わりを学んでもらう	小学3・4年生	随時	開拓資料館		
社教	郷土資料の展示	佐呂間町における開拓資料を収集、保存展示し、教育、学術文化の進展に寄与する。	全町民	常設	開拓資料館 町民センター		
社教	石器等巡回展示	町内の児童が地域の歴史への興味・関心を深めることを目的として、町内在住者が保有する石器等を資料とともに巡回展示する。	小学生	随時	各小学校		石器等巡回展示及び授業 各学校の希望日に巡回展示（1週間程度）及び巡回期間内に町内講師による授業（講話・製作体験）を実施予定

領 域		情報・制度					
課 題		○対象者にあわせた情報発信を行っていく必要がある。（年齢層、外国籍住民、障がい者等） ○現状のニーズに合わせた制度見直しや周知が必要である。 ○支援事業や表彰について、定期的に内容を見直す必要がある。 ○サポーターバンク制度の見直し（登録団体の基準）と、周知方法の工夫が必要である。					
方向性		○情報発信ツールの拡充及び使用方法の啓発 ○多様な対象者への情報発信 ○各種制度の見直しや活用に向けた周知方法の検討					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人数	備 考
社教	町広報 「夢つうしん」	生涯学習に関する啓もう・啓発のための広報活動を展開する。学校教育、社会教育事業について、積極的に周知する。	全町民	毎月			令和6年5月号より町広報内に「夢つうしん」ページを設けている（編集は社会教育課）
社教	遠軽地区学習支援 ネットワーク事業 「なな・なんと情報」	遠軽地区各町村事業の情報を広く周知することにより、住民の学習機会の拡大を図る。	全町民 （広報折込）	年4回発行			令和8年度から年4回発行に変更 遠軽地区教育委員会協議会主催事業 （R8編集担当 遠軽町）
社教	地域学習活動支援事業 「まなびすと」	住民からの学習要望に対し必要な支援を行うことにより、住民の自発的な学習意欲の助長、学習機会の拡大を図り、地域生涯学習の充実・促進を図る。	町内で5人以上で組織する団体				学習要望に対する指導・助言（人的支援） （金銭的援助）上限額 ・講師謝礼 20,000円 ・消耗品費 5,000円
社教	サポーターバンク	町民の多様な自主的生涯学習活動を奨励、支援し、生涯学習活動の普及発展を図るとともに、町民が永年にわたって蓄積した知識、技能等を地域社会に還元する人材の発掘により社会参加を促進する。	全町民				登録者の積極的な活用 学校の学習活動における地域人材への支援
社教	社会教育LINE公式アカウント運用	LINE公式アカウントを利用し、社会教育に関する情報発信を行う。	全町民 （登録者）	随時			令和7年度運用開始 R8.4.1現在登録者数142名
社教 社体 スター 図書	インターネットを活用した 情報提供	町ホームページなどを活用し、各種制度、事業の情報発信を行う。	全町民	随時			
社教	芸術文化表彰	（詳細「芸術・文化」領域に掲載）					
社教	芸術文化支援事業	（詳細「芸術・文化」領域に掲載）					
社体	スポーツ表彰	（詳細「健康づくり・スポーツ」領域に掲載）					
社体	スポーツ振興助成	（詳細「健康づくり・スポーツ」領域に掲載）					
図書	新着図書情報	（詳細「図書館」領域に掲載）					
図書	図書館だより「こちら佐呂間町立図書館です。」	（詳細「図書館」領域に掲載）					

領 域		図書館					
課 題		○節目で本を提供し身近に本がある環境をつくりだす必要がある。 ○図書館司書の配置が必要である。 ○学校との連携が必要である。 ○読書以外の利用方法についての周知を行う必要がある。（クーラースポットや休憩） ○図書館サービスの周知が必要である。					
方向性		○本の贈呈事業の拡充 ○図書館司書の活用 ○学校との連携強化 ○図書館の機能拡充（交流、休憩） ○情報発信の充実					
係	事 業 名	趣 旨	対 象	期 日	開催場所	人数	備 考
図書	ブックスタート	子育て支援として絵本の活用を促進し、乳幼児と保護者の図書館の利用拡大を図る。 乳児と保護者に、読み聞かせの体験と組み合わせて、絵本を渡す。	乳児・保護者	偶数月 第4木曜日	佐呂間 コミセン	21組見込	9・10ヶ月児対象の乳幼児健診に合せて実施 「だるまさんが」 「なーんだなんだ」
図書	セカンドブック	ブックスタート後、改めて絵本を通じての親子のふれあいの大切さを伝える。	3歳児	偶数月 第4木曜日	佐呂間 コミセン	24名見込	3歳児対象の乳幼児健診に合せて実施 「おっかけにんじゃ」 「きまぐれレストランのおかし」
図書	(新) 10歳の10冊	現在活字離れが進んでいる中、この1冊を通して、いつも身近に本がある環境をつくり、読書に対する興味や関心を持ってもらえるきっかけづくりとして書籍10冊のうち希望する1冊を贈る。	小学4年生	7月	各小学校	27名見込	北海道青少年協会が選定した「こどもたちに読んでほしい200冊図書目録」の小学4年の中から10冊を選定し、1冊選んでもらう。
図書	移動図書館車巡回及び文庫サービス	情報及び資料提供の地域格差を解消し、図書館活動のPR、新刊案内等広域的なサービスの提供を行う。また子どものうちから読書に対する興味、関心を高め、読書習慣を身につける。	全町民	随時			(巡回サービス)3ヶ所 ・各小中学校(文庫サービス) 2ヶ所 若佐コミセン・浜佐呂間活性化センター(団体貸出)21ヶ所 ・各小中学校・高校・保育所・子育て支援センター・老人福祉センター・ケアハウス・スター・めるくる・森永・J A・町民課 他 (宅配サービス)7名
図書	絵本原画展	絵本の原画を観ることにより、興味関心をもち、本に親しみを感じてもらう。	全町民	7月17日～7月30日	図書館		絵本パネル巡回展 山崎 由貴 「おすしアイドル」原画展 「ねりものハウス」スライドショー ※ホーク図書館協議会遠紋ブロック共同事業
図書	読書感想文・感想画	読書を通して子どもの豊かな感性や表現力の向上を図るとともに、読書習慣を育てる。	各小中学校 児童・生徒		図書館		読書感想画展示 ・作品募集 6月～10月 ・感想画展示(館内) 11月 ・記念品・作品集贈呈 12月 *中学生は全道感想文コンクールに応募
図書	図書館講演会	本・物語・読書に関連する講師・実演者を招き、講演会や講習会を行う。	全町民	7/25	図書館		山崎由貴(絵本作家) ワークショップ
図書	おはなし広場	幼い時から絵本や紙芝居の読み聞かせにふれることで、読書の楽しさを身につけてもらう。	幼児・児童 保護者	毎週土曜日 午後2時	図書館		図書館職員又はボランティアが読み聞かせを行う 令和8年3月末現在 ボランティア1名登録
図書	人形劇公演	人形劇サークルによるボランティア活動を通して、絵本や童話の世界と子どものふれあいを図る。	幼児～一般	年数回	図書館・保育所		人形劇サークル「ばんぷきん」による人形劇、パネルシアター、ミュージックシアター、大型紙芝居の公演を行う 老人施設や団体からの要請にも対応する 平成29年度からは交通安全人形劇も実施
図書	映画上映会	映画鑑賞を通して、本や物語との出逢いを図る。	幼児～一般	定期	図書館		おはなし広場終了後に会議室等で開催 DVD作品を借り上げ、または購入し上映する
図書	子ども向け事業	学校休業期間中に図書館に親しむ機会を設け、図書館の利用促進を図る。	児童	夏休み・冬休み・春休み 学校休業期間	図書館		子ども向け事業を開催 サート(管理課所管)と共催(夏・冬)
図書	図書館まつり	図書館に訪れるきっかけを作ることで、図書館のPR及び利用拡大を図る。	幼児～一般	9月6日	図書館		各種行事を実施する ・古本市 ・実演 等 ※協力依頼(ボランティア)
図書	新着図書情報	図書館に登録された新刊をとりまとめ、広く町民に知らせる。	幼児～一般	月1回	図書館及び 町ホームページ		印刷物をカウンター前で配布 * R7～ 4種類で月1回発行 一般向けを町ホームページ上でPDF形式で閲覧 高齢者向けを寿大学、ふれあい郵便に同封 児童向けを各学校へ配布 絵本向けを保育所、支援センター等へ配布
図書	図書館だより「こちら佐呂間町立図書館です。」	特集コーナーの紹介や、行事の告知など、図書館の情報を発信し、来館のきっかけを作る。	幼児～一般	月1回	図書館及び 町ホームページ		印刷物をカウンター前で配布 町内の学校・施設へ配布 町ホームページ上ではPDF形式で閲覧
図書	20歳の20冊	「読書を通して自立した社会人になってほしい」との思いを込め選んだ書籍20冊のうち希望する1冊を新成人に贈る。	平成17年4月2日～ 18年4月1日までに 生まれた方	1月10日	町民センター		成人式において実施(欠席者には送付)
図書	学校図書室との連携	学校と連携し、学校図書室の利用促進を図るため司書を中心とした図書館職員を派遣し、利用しやすい図書室づくりをサポートする。					

社会教育団体

■ 少年団体

○佐呂間町子ども会育成会連絡協議会

会 長 佐々木 大

事務局長 土本 千晶

団 体 名	育成会代表者名	子ども会員数	育成会員数
はばたけ子ども会	今 野 敦 子	7	7
とびたて子ども会	鈴 木 亜 未	41	27
中学区青空子ども会	佐々木 大	19	15
うきうき子ども会	山 内 伸 嗣	27	19
富富士子ども会	藤 崎 康 平	21	9
若里子ども会	水 戸 裕 介	9	6
若佐子ども会	田 宮 拓 郎	17	15
計		141	98

■ 成人団体

○佐呂間町PTA連合会

会 長 杉 山 友 洋

事務局長 伊 藤 浩 司

団 体 名	代 表 者 名	会 員 数
若佐小学校PTA	田 宮 拓 郎	24
佐呂間小学校PTA	惣 田 正	112
佐呂間中学校PTA	杉 山 友 洋	104
佐呂間高校PTA	河 井 裕 樹	71
計		311

■ 文化団体

○佐呂間町文化連盟

会 長 江 口 美 知 子

事務局長 大 宮 義 勝

区 分	団 体 名	代 表 者 名	会 員 数
華 道	華松園（松月堂古流）	天 内 和 子	6
歌 謡	カラオケ愛好会	岡 本 智帥雄	10
歌 謡	カラオケあすなろ	山 口 哲 夫	4
歌 謡	カラオケ寿	村 岡 マチ子	10
歌 謡	ハマナス	佐々木 昭 一	15
日 舞	若柳臣流・若寿会	若 柳 吉竹寿	23
ダ ン ス	社交ダンス同好会	日 沼 洋 子	12
ダ ン ス	キッズダンス	木野村 彩 華	15
ハワイアン	レイアロハ・フラの会	石 川 智佳子	23
詩 舞	聖月流若佐	野 畑 ふみ子	5
大 正 琴	大正琴くるみ会	檜 垣 久美子	6
大 正 琴	藤朋流	杉 本 久美子	9
詩 吟	静雲國暁流	寺 田 忠 弘	6
	計	13 団体	144

■ 体育団体

○ 佐呂間町スポーツ協会

会 長 尾 崎 実 事務局 長 草 野 雅 之
副 会 長 木 村 功 事務局 室 井 公 太
" 大 宮 克 美

団 体 名	代 表 者 名	事 務 局	会 員 数
佐呂間町野球協会	石 川 勝 義	中 原 央 人	101
佐呂間町剣道協会	窪 田 直 喜	幸 松 賢	15
佐呂間町ソフトボール協会	大 宮 克 美	橋 本 彪	87
佐呂間スキー協会	門 茂 治	山 本 幸 代	20
佐呂間ゴルフ同好会	船 木 邦 雄	水 田 勝 彦	47
佐呂間パークゴルフ協会	水 戸 秀 美	水 戸 秀 美	75
佐呂間町サッカー協会	阿 部 真	阿 部 楓 馬	25
サロマテニス協会	山 原 光 広	山 原 光 広	16
佐呂間町卓球協会	渡 井 靖 夫	永 井 啓 子	11
佐呂間モルック愛好会	窪 内 忠 雄	干 場 久	22
佐呂間町バドミントン協会	諸 岡 伸 弥	室 井 斗 哉	7
佐呂間町ブルームボール協会	室 井 久 志	中 原 央 人	0
佐呂間町陸上競技協会	尾 崎 実	土 本 千 晶	0
計 (13 団体)			426

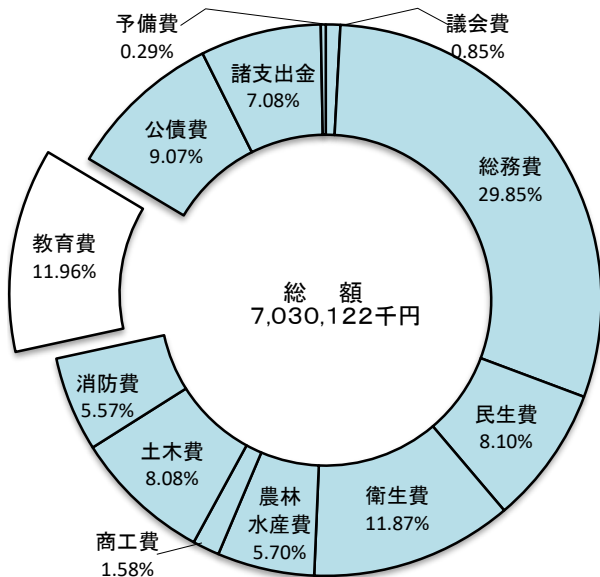
○ 佐呂間町スポーツ少年団本部

本 部 長 本 間 満
副 本 部 長 鹿 島 裕 明
事務局 長 吉 本 薫

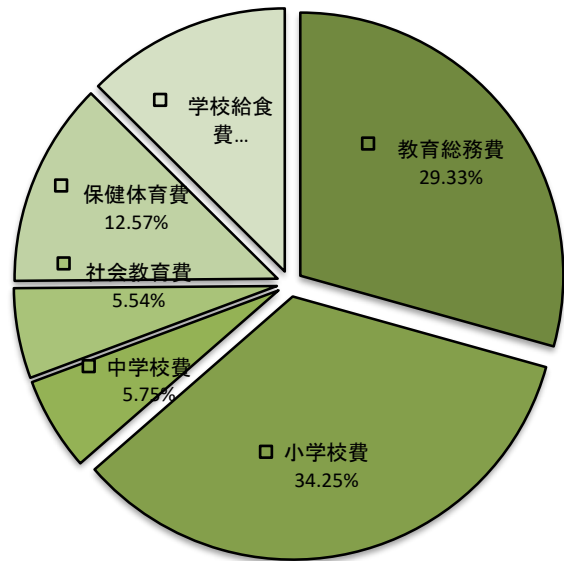
団 体 名	代 表 者 名	事 務 局	会 員 数
佐呂間野球スポーツ少年団	鹿 島 裕 明	鹿 島 裕 明	22
佐呂間バレーボール少年団	吉 本 薫	吉 本 薫	6
佐呂間サッカー少年団	野 村 林太郎	野 村 林太郎	10
佐呂間ミニバスケットボール少年団	本 間 満	本 間 満	25
サロマジュニアラグビー少年団	尾 崎 実	尾 崎 実	0
計 (4 団体)			63

教 育 予 算

■令和8年度一般会計款別予算



■令和8年度教育費項目別割合



■教育費項目別予算額 (令和8年4月1日現在)

歳 出 予 算				財 源 内 訳			
項	目	予算額 (千円)	割合 (%)	国 道 支出金	地方債	その他	一般財源
教 育 総 務 費		246,642	29.33%			31,261	215,381
	教 育 委 員 会 費	1,650					1,650
	事 務 局 費	139,762				144	139,618
	教育財産管理費	71,243				1,948	69,295
	教育振興費	33,987				29,169	4,818
小 学 校 費		288,083	34.25%	76,987	153,600	15,000	42,496
	学 校 管 理 費	273,761		76,845	153,600	15,000	28,316
	教育振興費	14,322		142			14,180
中 学 校 費		48,384	5.75%	117	2,600	8,000	37,667
	学 校 管 理 費	28,537		19	2,600	8,000	17,918
	教育振興費	19,847		98			19,749
社 会 教 育 費		46,638	5.54%		4,800	5,780	36,058
	社会教育総務費	11,959				2,120	9,839
	町民センター運営費	20,792			4,800	160	15,832
	図 書 館 費	13,887				3,500	10,387
保 健 体 育 費		105,692	12.57%		16,100	7,320	82,272
	保健体育総務費	23,408			5,700	4,911	12,797
	体 育 館 費	12,726			1,300	157	11,269
	スキー場管理費	3,768				1,236	2,532
	武道館・温水プール費	65,790			9,100	1,016	55,674
学 校 給 食 費		105,599	12.56%		4,800	45,637	55,162
	学 校 給 食 費	105,599			4,800	45,637	55,162
合 計		841,038	100.00%	77,104	181,900	112,998	469,036
財源割合 (%)				9.17%	21.63%	13.43%	55.77%

教 育 施 設

施設の概要（令和8年5月1日）

■ 小学校

事 項 学校名	校地面積 (㎡)	建 物 面 積 (㎡)						
		校 舎				屋 内 運 動 場		
		木 造	鉄 筋	その他	計	鉄 筋	その他	計
佐 呂 間 小 学 校	31,897	73	3,448		3,521	27	1,061	1,088
若 佐 小 学 校	39,998		1,726	276	2,002	15	717	732
合 計	71,895	73	5,174	276	5,523	42	1,778	1,820

■ 中学校

事 項 学校名	校地面積 (㎡)	建 物 面 積 (㎡)						
		校 舎				屋 内 運 動 場		
		木 造	鉄 筋	その他	計	鉄 筋	その他	計
佐 呂 間 中 学 校	33,970		3,454	169	3,623		1,052	1,052

■ 佐呂間町学校給食センター

建物面積 (㎡)	設 置 年 月 日	所 在 地	備 考
889	平成19年3月22日	佐呂間町幸町1番地の1	平成19年4月9日から 各学校へ供用開始

■ 社会教育施設

施 設 名	規 模 (m ²)	設 置 年 月	所 在 地	施 設 の 概 要
町 民 セ ン タ ー	2,322	S 52. 6	永 代 町	集会室、展示ロビー、研修室他
開 拓 資 料 館	110	S 52. 3	永 代 町	農具、漁具、生活用具 約200点展示
図 書 館	797	S 58. 12	永 代 町	児童館併設
体 育 館	2,020	S 47. 10	西 富	アリーナ外
武 道 館 ・ 温 水 プ ー ル	3,663	H 6. 9	西 富	武道館、温水プール、トレーニング ルーム、ストレッチルーム、ランニ ングコース
総 合 グ ラ ン ド	28,363	S 47. 10	西 富	照明施設 8 基 ソフトボール場 2 面・野球場 1 面
1 0 0 年 広 場 多 目 的 広 場	10,800	H 6. 5	西 富	芝コート
1 0 0 年 広 場 パ ー ク ゴ ル フ 場	41,897	H 6. 5	西 富	照明施設 2 基 3 6 ホール
1 0 0 年 広 場 ゲ ー ト ボ ー ル 場	1,437	H 6. 5	西 富	3 面
テ ニ ス コ ー ト	1,469	S 55. 8	西 富	照明施設 1 基 2 面
浜 佐 呂 間 テ ニ ス コ ー ト	851	H 7. 12	浜 佐 呂 間	1 面
浜 佐 呂 間 パ ー ク ゴ ル フ 場	24,288	H 10. 2	浜 佐 呂 間	1 8 ホール
若 佐 ゲ ー ト ボ ー ル 場	2,304	H 10. 2	若 佐	2 面
若 佐 パ ー ク ゴ ル フ 場	17,868	H 10. 2	若 佐	1 8 ホール
若 佐 テ ニ ス コ ー ト	685	H 10. 2	若 佐	1 面
ス キ ー 場	93,140	S 59. 12	西 富	ロッジ 照明施設 8 基 搬器 7 2 台

施設の利用状況（令和7年度）

■ 町民センター

区 分	集 会 室	控 室	調 理 室	第1研修室	第2研修室	第3研修室	第4研修室	和 室 (1.2.3)	会 議 室	託 児 室	ロビー・ 2F展示室	合 計
利用件数	247	33	57	179	92	87	45	103	46	14	148	1,051
利用人数	8,242	449	563	1,482	508	944	229	1,140	234	37	1,261	15,089

■ 図書館

区 分	本 館	B M 車	若 佐 コミセン	浜佐呂間	学 校 巡回文庫	団体貸出	宅 配	合 計
貸出冊数	21,489	462	206	29	5,779	9,799	1,162	38,926
貸出人数	4,911	283	54	10	443		190	5,891

■ 開拓資料館

利用人数	利用日数
63	15

■ 武道館・温水プール

区 分	武 道 館	温 水 プ ー ル	トレーニング ルーム	研 修 室 会 議 室	和 室	ランニング コース	そ の 他	合 計
利用人数	5,397	4,219	5,060	526	170	858	1,538	17,768

■ 体育館

利用人数	利用日数
7,784	285

■ テニスコート

区 分	佐 呂 間	浜佐呂間	若 佐	合 計
利用人数	133	0	0	133
利用日数	43	0	0	43

■ スキー場

利用人数	利用日数
13,104	39

■ 100年広場

区 分	ハ ー ク ゴルフ場	多 目 的 広 場	合 計
利用人数	6,195	1,861	8,056
利用日数	199	103	302

■ 総合グラウンド

区 分	ソ フ ト ボール場	野 球 場	フ ー ル ー ム ホ ー ル	合 計
利用人数	845	1,970	80	2,895
利用日数	30	80	4	114

■ 若佐ゲートボール場

利用人数	利用日数
106	17

■ 浜佐呂間プール

利用人数	利用日数
201	32

■ 学校開放

区 分	佐呂間小	若 佐 小	浜佐呂間小	佐呂間中	合 計
利用人数	5,220	89	79	1,187	6,575
利用日数	238	4	13	68	323

■ パークゴルフ場

区 分	若 佐	浜佐呂間	合 計
利用人数	3,183	619	3,802
利用日数	199	199	398

教育関係委員名簿

■ 教育委員（５名）

氏 名	任 期	備 考
鈴 木 毅	令和7年10月1日 ～ 令和10年9月30日	教育長
平 戸 鉄 也	令和5年10月14日 ～ 令和9年10月13日	教育長職務代理
内 藤 宏 文	令和4年10月14日 ～ 令和8年10月13日	
佐々木 由理佳	令和6年10月14日 ～ 令和10年10月13日	
岡 松 直 子	令和7年10月14日 ～ 令和11年10月13日	

■ 社会教育委員（１８名以内） 任 期 令和8年4月1日 ～ 令和10年3月31日

氏 名	備 考	氏 名	備 考
西 岡 理 恵	委 員 長	大 脇 茂 雄	
尾 崎 実	副委員長	今 野 敦 子	
檜 垣 久美子	副委員長	佐 藤 元 展	
佐 藤 優 紀		宮 崎 勉	
本 間 恵 奈		幸 松 杏 子	
住 吉 浩 実		小笠原 絵 美	
船 木 桂 輔		宮 島 千 秋	
佐々木 理 有		名 雪 仁	
永 野 亜 紀		梶 慎 一	

■ スポーツ推進委員（８名以内） 任 期 令和7年4月1日 ～ 令和9年3月31日

氏 名	備 考	氏 名	備 考
室 井 久 志	委 員 長	住 吉 健 司	
佐 伯 優 一	副委員長	山 崎 亜 弥	
柏 尾 郁 未		田 宮 奈 々	
宇 野 優 利		大 橋 紘 子	

■ 佐呂間町教育委員会事務局の機構（令和8年4月1日現在）

（ ） 兼務職員 ☐ 暫定再任用職員

【 】 会計年度任用職員

教育長
鈴木 毅

管理課長 大谷 宏明
課長補佐 野村 均
主 幹 東 優佑

TEL 2-1294

FAX 2-1131

指導主事

（東 優佑）

語学指導助手

【ウィルソン・ジェシー】

総務係長（野村 均） — 宇野 辰哉

教育委員、教育委員会議、総合教育会議渉外事務、公印の管守、儀式・典礼、教職員の表彰、条例・規則・令達、学校の設置・廃止、文書の収受・発送、局内の取り締まり、町議会提出議案の総括、請願・陳情、職員の任免・その他人事・福利厚生・保健衛生、教職員の任免・人事・給与、教職員の分限・懲戒・服務、学級編成・教職員の配置、教職員団体、税外収入、学校整備、教育財産、教員住宅の入退去・維持管理、物品管理、学校経理、学校施設の維持管理、奨学資金、その他学校管理に関すること、オホーツク管内教育委員会協議会に関すること、教職員の免許状、教職員の旅費、校務支援システムに関すること、他の係に属さない事務

学校教育係長 沢井 香奈 — （宇野 辰哉）

教職員の研修、学齢児童生徒の就学、児童生徒の入学・転学・退学、学校医・学校歯科医・学校薬剤師、通学区域、教育課程・学習指導・生徒指導・職業指導、学習効果の評価、就学奨励に関すること、要保護・準要保護児童生徒の認定等、教科書・その他教材に関すること、教職員及び児童生徒の福利厚生・保健衛生に関すること、児童生徒の災害、語学指導助手に関すること、姉妹校交流に関すること、遠距離通学に関すること、税外収入に関すること、学校に関する各種調査、GIGAスクールに関すること、学校給食に関すること、その他学校教育に関すること

教育魅力化推進室長

弘内 裕子

— 魅力化推進係長（弘内 裕子） — （宇野 辰哉）

佐呂間高校の魅力化・生徒募集の総合企画、道外・町外からの入学者募集の広報戦略、高校生の生活環境整備・寄宿舎の運営管理、生活支援員の確保・指導監督、入学時・卒業時の給付金その他経済的支援制度の運用、地域学校協働活動の推進、地域人材バンクの構築・運営、地域連携型部活動・生徒による地域づくり活動の支援、小中学校と高校の連携教育の調整、佐呂間高校・関係機関との連絡調整、その他高校存続対策・教育魅力化に関すること

学校給食センター所長

（大谷 宏明）

次 長（野村 均）

TEL 5-2555

FAX 5-3950

— 学校給食係長（野村 均） — ☐ 斎藤 博

☐ 栄養教諭・管理栄養士 大島 智恵

学校給食センターの管理運営、諸業務、施設の点検・整備に関すること

社会教育課長 土本 千晶

課長補佐 阿部 真

TEL 2-1295

FAX 2-1131

社会教育係長（阿部 真）— 片平 海姫・（今野 稀心）

社会教育委員、青少年教育・婦人教育・成人教育・高齢者教育、青少年団体・文化団体の育成指導、社会教育施設の整備・管理運営、文化財の保護、郷土資料の収集保存管理、成人式、生涯学習、その他社会教育に関すること

— 社会教育係主査 山本 幸代

— 社会体育係長 中原 央人 — 今野 稀心・（片平 海姫）

社会体育事業、社会体育施設の整備・運営管理、スポーツ推進委員、社会体育団体の育成指導、学校開放事業、地域体育の振興、その他社会体育に関すること

図書館長 山原 光広

TEL 2-2215

FAX 2-2632

— 管理奉仕係長（山原 光広） — 山田 星・岩本 扇

【渡辺 晶子】・☐ 久米 修一

公印の管守・文書の収受・発送・整理・保存、図書館協議会、物品の出納管理、図書資料の発注・収集・整理保存、図書資料の分類配列・目録の整備、参考業務・読書相談、図書館奉仕に関すること

武道館・温水プール館長

（土本 千晶）

副館長 前 典宏

TEL 2-2261

FAX 2-1461

— 管理指導係長 佐藤 大輔 — （今野 稀心）

公印の管守、公文書の収受・発送・整理・保存、物品の出納管理、施設の使用許可、施設の整備・維持管理、体育・スポーツ・レクリエーション活動普及・調査研究、資料の収集・整理保存・活用、各種スポーツの適正・健康・体力相談、施設利用者に対する事故防止の監視、目的を達成に必要な事業

佐 呂 間 町 民 憲 章

わたくしたちは、森と湖のきびしい大自然の中で開拓した先人のたくましい精神を受けつぐ佐呂間町民であることを誇りとしています。

わたくしたちは、自然の恵みに感謝しながら生きがいのある生活確立し、希望と自信をもって、ひとりひとりの幸せと未来に伸びゆく、豊かで明るいまちをつくるため、この憲章を定めます。

わたくしたち佐呂間町民は、英知と友愛と勇気をもって、

- 1 自然の恵みを生かし、美しく住みよいまちをつくります。
- 1 進んできまりを守り、明るく平和なまちをつくります。
- 1 たがいに助け合い、あたたかく幸せなまちをつくります。
- 1 仕事に誇りをもち、楽しく豊かなまちをつくります。
- 1 若い力をそだて、伸びゆく文化のまちをつくります。

(昭和50年12月11日制定)

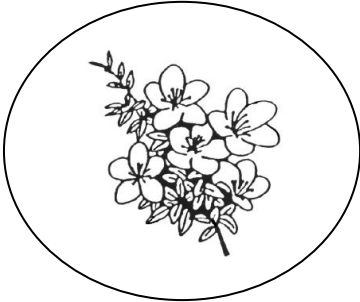
生涯スポーツの町宣言

わたくしたち佐呂間町民は、生涯を通じて、スポーツを愛したくましい心と体を鍛え、健康で明るい豊かな郷土を築くため「生涯スポーツの町」を宣言します。

- 1 スポーツを愛し、豊かな心と健やかな体をつくりましょう。
- 1 スポーツに親しみ、いつまでも活力ある生活を送りましょう。
- 1 スポーツを楽しみ、ふれあいと友情を深めましょう。
- 1 スポーツの輪を広げ、明るく住みよいまちをつくりましょう。

(昭和62年5月7日宣言)

町 花



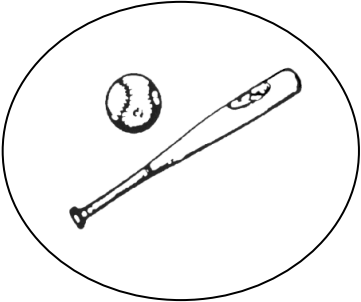
エゾムラサキツツジ

町 木



オオバボダイジュ

町 技



ソフトボール

(昭和59年9月12日制定)

「令和８年度 佐呂間町教育の概要」

佐呂間町教育委員会 管理課総務係

TEL : 01587 (2) 1294

FAX : 01587 (2) 1131

E-mail : kyoui@town.saroma.hokkaido.jp